

# 2017(平成29)年度事業報告書



公益財団法人

**ボーイスカウト日本連盟**

## <目 次>

I. 2017（平成29）年度事業計画の概要	1
II. 2017（平成29）年度事業計画体系	3
III. 重点事業への取り組み	4
IV. 長中期計画の行動計画より取り組んだ施策	8
V. 一般事業の取り組み	15
1. 主として団に関する事業	15
2. 主として県連盟・地区に関する事業	17
3. 主として日本連盟に関する事業	19
VI. 各種主要会議の開催	28
VII. 参考（規程等改正一覧）	31
VIII. ボーイスカウトエンタープライズ事業報告	32

# I. 2017（平成29）年度事業計画の概要

## 1. 2017（平成29）年度事業スローガン

2017（平成29）年度は、日本連盟創立100周年を目指した長中期計画を踏まえ、前年度に引き続き、「活動的で自立したスカウトを育てよう！！」～日本連盟創立100周年を目指して～として、施策と事業に取り組んだ。

## 2. 重点施策

### (1). 日本連盟創立100周年を目指した長中期計画の行動計画への取り組み

2022年の日本連盟創立100周年までに達成する長中期計画については、2017（平成29）年度は2年目を迎え、次の12項目の行動計画に沿った取り組みを行った。（P. 8～15参照）

- ① コミッショナーの充実、② 質の高い活動のための方策（セーフ・フロム・ハーム）、
- ③ 指導者養成、④ 地域コミュニティづくり、⑤ プログラムの見直し、⑥ 登録制度の見直し、
- ⑦ スカウティングにおける成人の役割、⑧ 情報伝達手段の刷新、⑨ 組織体制の検討、
- ⑩ 国家資格認定制度へのチャレンジ、⑪ 公益事業の取り組み、⑫ 野外活動施設の確保

### (2). 加盟員拡大・組織拡充に向けた取り組み

加盟員の拡大と組織拡充に取り組み、スカウト活動を活性化するために、日本連盟のみならず、県連盟・地区・団との連携により、次の3項目を重点的に取り組んだ。

- 加盟員獲得に向けた広報活動の展開・スカウト活動のユニークさをアピール
- 母親・父親世代へのアプローチと関心事のアピール
- 団への支援と新団設立への取り組み

### (3). 安定した運営

公益財団法人として安定した運営を進めるために、次の4項目への取り組みを進めた。

- 企業・他団体・行政との連携促進
- 維持会員増強
- 登録料の検討
- 世界・地域との連携

### (4). 100周年記念事業の策定

日本連盟創立100周年まで5年となる2017（平成29）年度より、記念事業の様々な計画の検討を開始した。

- 記念事業の策定と準備開始
- 第18回日本スカウトジャンボリー（2022年）の会場候補地の公募

## 3. 新たな方針と施策

年度当初に計画した重点施策に加えて、次の重要方針と施策を決め、日本のスカウト運動の再興への取り組みを具体的に開始した。

### (1). 財政再建及び組織改革に関する基本方針

2017（平成29）年5月の全国大会における奥島孝康理事長による非常事態宣言を受けて、スカウト運動の再興に全力を尽くすため、経営状況の透明化や組織の効率化を進めることとした。そのため、今後の財政再建や経営体制のあり方について、次の7つの「基本方針」に取り組む。

- ① 登録料の値上げによって財政を立て直し、スカウト運動の質を向上させる
- ② 事業や業務の全面的な見直しを行い、予算の効率化を実現する
- ③ 収入の柱のひとつであるエンタープライズの経営を刷新し、安定的に収入を確保する
- ④ 保有金融資産の活用や企業寄付の獲得など新たな収入の道を確保する
- ⑤ 高萩スカウトフィールドの活用方法を具体的に示す
- ⑥ 理事会の執行体制の明確化など組織体制の見直しを行う
- ⑦ 日本連盟の経営情報の透明化を進め、関係者の声を聞く

## (2). 日本連盟100周年財政ビジョン

日本連盟の維持・発展には、財政面の対応が不可欠である。そのため、「日本連盟100周年財政ビジョン」を取りまとめ、必要な財政再建を進め、長中期計画、広報戦略、加盟員拡大と中途退団抑止を効果的に進め、相乗効果を達成するための取り組みを始めた。

### ① 政策課題への取り組み

- 中途退団抑止策への財政面施策 - 共済事業への財政面施策 - 特定資産取崩分積立施策

### ② 自助努力による経済効果策

次の自助努力により収入増と支出減を図り、その財源を中途退団抑止に役立てる。

[収入増の取り組み]

- 国債の不動産化と本郷会館の賃貸化 - 集会等参加者負担金の値上(単年度処理案件のみ)  
- 施設利用料の増収 - 企業からの協賛金

[支出減の取り組み]

- 事務局人件費削減化

### ③ 加盟登録料の改定

財政健全化のために加盟登録料の改定は避けて通れないため、次の対応を進めた。

- 2019年度からの加盟登録料改定を進める  
- その2年後から総収入の変化に対応した「総収入リンク型」への移行も視野に入れる

## (3). 広報戦略

2016(平成28)年度より引き続き、ボーイスカウトの認知度を上げ、会員を増やし日本のスカウト運動を活性化させるために、次の「新広報戦略10本の矢」に組織を挙げて取り組んだ。

- ① イメージを統一して徹底的に発信(例: コカ・コーラBS自販機設置)
- ② きっかけになるPR動画を拡散
- ③ PRムービーコンテストの実施
- ④ 関心を持った人たちをリクルートサイトに呼び込む
- ⑤ 団情報のHP発信支援
- ⑥ 多くの人にスカウティングを体験してもらう機会提供
- ⑦ 入隊したビーバー・カブのお母さんの声を聞く
- ⑧ ローバーを社会に売り込む
- ⑨ かつての仲間を呼び戻す
- ⑩ 「PRドリームチーム」参加促進

## 4. 重点事業

次の5事業を重点事業として取り組んだ。(事業の内容、成果と評価は4ページから7ページを参照)

- ① 日本ジャンボレット高萩2017・高萩スカウトフィールド・グラウンドオープン
- ② 富士特別野営2017
- ③ 山中野営場お別れイベント・山中野営場閉鎖
- ④ 世界および国際事業への取り組み
- ⑤ 第17回日本スカウトジャンボリー開催準備

## 5. 一般事業

例年あるいは定期的に取り組んでいる事業を中心に、主として団に関する事業、主として県連盟・地区に関する事業、主として日本連盟に関する事業に分類し、15ページから27ページに示すとおり取り組んだ。

## Ⅱ. 事業体系

### 重点施策と重点事業 体系図

スローガン 活動的で自立したスカウトを育てよう！	重点施策	100周年を目指した長中期計画の行動計画への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① コミッショナーの充実</li> <li>② 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)</li> <li>③ 指導者養成</li> <li>④ 地域コミュニティづくり</li> <li>⑤ プログラムの見直し</li> <li>⑥ 登録制度の見直し</li> <li>⑦ スカウティングにおける成人の役割</li> <li>⑧ 情報伝達手段の刷新</li> <li>⑨ 組織体制の検討</li> <li>⑩ 国家資格認定制度へのチャレンジ</li> <li>⑪ 公益事業の取り組み</li> <li>⑫ 野外活動施設の確保</li> </ul> <p>平成29年度の取り組みはP6～P9参照</p>
		加盟員拡大・組織拡充に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 加盟員獲得に向けた広報活動の展開・スカウト活動のユニークさをアピール</li> <li>- 母親・父親世代へのアプローチと関心事のアピール</li> <li>- 団への支援と新団設立への取り組み</li> </ul>
		安定した運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 企業・他団体・行政との連携促進</li> <li>- 維持会員増強</li> <li>- 登録料の検討</li> <li>- 世界・地域との連携</li> </ul>
		100周年記念事業の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 記念事業の策定と準備開始</li> <li>- 第18回日本スカウトジャンボリー(2022年)の会場決定</li> </ul>
	重点事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 日本ジャンボレット高萩2017・高萩スカウトフィールド・グランドオープン</li> <li>2. 富士特別野営2017</li> <li>3. 山中野営場お別れイベント・山中野営場閉鎖</li> <li>4. 世界および国際事業への取り組み</li> <li>5. 第17回日本スカウトジャンボリーの開催準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- グランド・オープニング・セレモニー</li> <li>- ビーバーからローバーまで参加するジャンボレット</li> <li>- 山中野営場での最後の富士特別野営</li> <li>- 山中野営場お別れイベントの開催</li> <li>- 第24回世界スカウトジャンボリー派遣実行委員会による日本派遣団編成準備</li> <li>- 第9回APRサミット会議への代表団派遣(インドネシア)</li> <li>- 第41回世界スカウト会議日本代表団派遣(アゼルバイジャン)</li> <li>- 第15回世界スカウトムート派遣(アイスランド)</li> <li>- 第13回世界スカウトユースフォーラム(アゼルバイジャン)</li> <li>- 平成30年夏に開催の第17回日本スカウトジャンボリー(17NSJ)の開催準備</li> </ul>
	一般事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>例年あるいは定期的に取り組んでいる事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 主として団に関する事業</li> <li>2. 主として県連盟・地区に関する事業</li> <li>3. 主として日本連盟に関する事業</li> </ul> <p>平成29年度の一般事業はP10～P11参照</p>

### Ⅲ. 重点事業への取り組み

#### 1. 日本ジャンボレット高萩2017・高萩スカウトフィールド・グランドオープン

2013（平成25）年度から整備を行っている高萩スカウトフィールドを正式にオープンし、初めての日本連盟行事として日本ジャンボレット高萩2017を開催した。大会期間2日目の5日に、グランドオープンセレモニーを実施し、正式オープンとした。

#### <事業の内容>

本大会は、日本連盟創立95周年にあたることから、「日本連盟創立95周年記念」を冠して、日本連盟で初めて、ビーバースカウトからローバースカウトまで全部門のスカウトが参加できる大会とし開催した。

■会 期：8月4日（金）～9日（水）の5泊6日

■会 場：大和の森 高萩スカウトフィールド

■テーマ：Stick to it!—最後まで頑張れ—

■後 援：文部科学省、茨城県、茨城県教育委員会、高萩市、高萩市教育委員会

■協 力：陸上自衛隊、アイコム株式会社、赤城乳業株式会社、大和ハウス工業株式会社、日本光電工業株式会社、株式会社バッファロー

■参加人数：1,720人

B	V	S隊	185人（指導者含む）
C		S隊	664人（指導者含む）
B		S隊	237人（指導者含む）
V		S	67人
本部スタッフ：209人（RS含む）			
大会役員・事務局：31人			
一 般：327人			

■来賓：59人

■主な行事

第1日（8月4日）：設営・開会式

開会式の最後には、森をスクリーンとした「プロジェクションマッピング」が披露され、壮大な光と音の演出に会場が包まれた。

第2日（8月5日）：グランドオープンセレモニー

橋本茨城県知事、樋口文部科学大臣政務官、逢沢 BS 振興国会議員連盟会長、小田高萩市長、羽田参議院議員、樋口大和ハウス工業株式会社会長をはじめ、多くの来賓の出席を得て、セレモニーを挙行了。（役職名等は開催当時）

第3日（8月6日）：プログラム・茨城DAY

茨城DAYには、地元の小学生たちが来場し、夜の「いばら Night」は夏の夜のお祭りを行った。

第4日（8月7日）：プログラム・お成り

秋篠宮同妃両殿下が、ジャンボレットをご視察になり、キャンプサイトではスカウトたちとお言葉を交わしていただき、複数のプログラムを体験された。

第5日（8月8日）：閉会式

台風の影響により、夜に予定されていた閉会式を、内容を変更して午後を実施した。

第6日（8月9日）撤営・表彰式

撤営と環境整備、BS部門の優秀班の表彰式を行い、大会の幕を閉じた。

#### <成果と評価>

本大会は、1. 高萩スカウトフィールドでは初となる日本連盟主催大会、2. ビーバースカウトからローバースカウトまで全部門のスカウトが参加できる新たな野営大会、3. 「ジャンボレット」という名称の大会、の3つの「初」の大会であった。

このフィールドならではの指定範囲内伐採による野営工作、ボーイの班対抗チャレンジプログラム、ベンチャーによる営火場の新設や間伐材でのトーテムポール製作など、各部門のスカウトが野営生活を楽しむ姿を感じることができた。

大会開催にあたっては、野営場の拡大、ステージおよびアリーナの建設、駐車場の整備・確保、ビーバーやカブの宿泊施設など課題の連続だったが、大会スタッフの努力や地域住民の方々のご協力、大和ハウス工業様からの管理棟（新平荘）のご寄贈、茨城県および高萩市からも3年間にわたるご支援・ご協力をいただき、この大会を開催し、所期の目的を達することができた。

## 2. 富士特別野営2017

山中野営場閉鎖に伴い、同野営場での最後の富士特別野営を開催した。

事業の内容：スカウト運動の基本である野外活動（野営）を通じて、その重要性を確認し、班制教育を通じての「教わること」「学ぶこと」を再確認する。また、プログラムとしての試練を乗り越える体験の中から、信頼・絆の大切さと、友情を育み、スカウトスピリッツ（徳性、忍耐力、気力、清貧）を実践することを目的に、次のとおり開催した。

- ・会 期：8月12日（土）～18日（金）
- ・会 場：ボーイスカウト日本連盟 山中野営場 他
- ・参加者：スカウト 15県連盟53人  
          隊指導者・上級班長 10人 他大会本部・スタッフ等29人  
          ローバースカウト年代 12県連盟23人
- ・プログラム：
  - 第1日（12日） 設営／開会式
  - 第2日（13日） パイオニアリング（ピラミッド信号塔）
  - 第3日（14日） パイオニアリング（続き）、場内外ハイキング（野帳）、歓迎の  
                  営火
  - 第4日（15日） 感謝の集い、水上訓練
  - 第5日（16日） 筏での山中湖横断／ハイキング（1泊）／仮野営
  - 第6日（17日） ハイキング（2日目）／キャンプファイア／閉会式
  - 第7日（18日） 撤営／解隊式／解散

成果と評価：・過去の参加者を含むローバースカウト年代をプログラム班に配属し、事前にプログラムを確認のうえ実施した。  
・新たなハイキングコースを開発し、2日続けて筏での山中湖横断を実施した。  
・11人の参加スカウトが大会後に富士スカウト章を受章した。  
・参加者は、長期野営と冒険的なプログラムにより、仲間との絆を深め、高度な技能を発揮する体験を得られた。

## 3. 山中野営場お別れイベント・山中野営場閉鎖

山中野営場を閉鎖するにあたり、8月に富士特別野営2017に続き、山中野営場お別れイベントを開催し、その後建物の解体工事を行い、年度末の3月末日までに山梨県と富士急に返還した。

事業の内容：22県連盟199人の参加を得て開催。主な運営は東京・神奈川連盟の奉仕者

- ・8月19日（土）大営火「グランドリュニオン」、グッバイパーティー
- ・8月20日（日）朝礼、閉場式-第1部、第2部-

成果と評価：・閉場式の前夜祭とした19日の大営火には100人を超える参加者が集い、歴史ある野営場最後の夜をしめやかに終えた。  
・翌20日、同野営場最後の朝礼、スカウトタウンもそれぞれ滞りなく終えた。  
・閉場式第1部では「道心堅固の碑」とのお別れセレモニーを行い、参加各県連盟単位で記念撮影を行うとともに、碑に幕をかけた。式典終了後同碑、および「われはふくろ」歌碑はともに那須野営場へ移設した。  
・閉場式第2部では長年世話になった椛浦山中湖村村長、富士急リゾート関係者等の臨席を賜りそれぞれに直接感謝を伝えることができた。

#### 4. 世界および国際事業への取り組み

##### (1) 第9回APRサミット会議への出席

事業の内容：4月22日から25日にインドネシアで開催された第9回APRサミット会議に、日本代表団は西村専務理事を始めとして5人が出席した。会議では、APR各国連盟間の情報交換、2017年から2020年までの地域内のビジョンの方向性の検討、第41回世界スカウト会議への地域としての取り組みの確認を行った。この会議には25の国と地域から162人が参加した。

成果と評価：アジア太平洋地域における日本連盟の協力姿勢を示すとともに、各国との協力関係の強化を行った。

##### (2) 第41回世界スカウト会議への出席

事業の内容：8月14日から18日にアゼルバイジャンで開催された第41回世界スカウト会議に、日本代表団は水野副理事長・国際コミッショナーを主席代表とし、15人が出席した。会議では、新たな加盟国の承認、世界スカウト機構の2023年ビジョンに向けた計画の協議、今後の世界スカウト行事および次回世界スカウト会議までの世界スカウト委員会の選挙などが行われた。日本連盟としては第23回世界スカウトジャンボリーの開催の報告を行うとともに感謝の言葉を伝えた。この会議には160の国と地域から1026人が参加した。

成果と評価：日本から出席した鈴木令子理事がブロンズウルフを受章し、また中野まり理事が今回の会議で世界スカウト委員の任期を終えた。これらのことにより日本の貢献が世界に知られた。

##### (3) 第15回世界スカウトムートへの参加

事業の内容：7月25日から8月2日までアイルランドで開催された第15回世界スカウトムートへ、日本から指導者2人、ローバースカウト17人、合計19人が参加した。ムート期間中は国際班で奉仕活動や自然体験プログラムを行った。この大会には89の国と地域から5123人が参加した。

成果と評価：17人も日本のローバースカウトが参加したことにより、日本のローバースカウト活動の国際性と内容の向上に繋がっていくことが期待される。

##### (4) 第13回世界スカウトユースフォーラムへの参加

事業の内容：8月7日から10日までアゼルバイジャンで開催された第13回世界スカウトユースフォーラムへ、日本から4人が参加した。フォーラムでは、世界スカウト機構の方針についての若者としての提言のまとめや世界スカウトユースアドバイザーの選挙が行われた。また、日本の参加者たちは、この後に開催された第41回世界スカウト会議へ引き続き出席をした。このユースフォーラムには116の国と地域から236人が参加した。

成果と評価：世界スカウト機構が提唱する「青年の意思決定への参画」の一貫として行われたこの行事への参加により、日本のローバースカウトの意識が高まり、それぞれの活動の場で意思決定への参画が進むものと期待される。

##### (5) 第24回世界スカウトジャンボリー派遣に向けた準備

事業の内容：2019年に実施する第24回世界スカウトジャンボリー派遣に向け、水野副理事長を実行委員長とする実行委員会の編成と2回の会合を行った。派遣日程の方針と1000人を規模とする日本派遣団の編成方針に従い、2018（平成30）年6月20日を締切りとする派遣員募集を開始した。

成果と評価：日本の参加者の人数は来年度に決まる。今年度においては参加者の対象年齢に一生に一度の経験となることをアピールし参加を呼び掛けている。

#### 5. 第17回日本スカウトジャンボリー開催準備

冒険 ～能登のチカラ未来へ～ をテーマに2018（平成30）年に石川県珠洲市で開催する第17回日本スカウトジャンボリー（17NSJ）については、2017（平成29）年度に参加者の申し込み手続きを行い、年末には大枠での準備を取りまとめた。

事業の内容：・実行委員会のもとに9つの専門部会を編成し、各部の業務に応じた計画を検討した。  
・5回の実行委員会と4回のサブキャンプチーフ会議（うち、各1回は現地視察を含む）



- を開催して、大会全体の運営やサブキャンプの運営について検討した。
- ・参加予定申し込みを実施し、予定人数に基づく第2次予算を検討した。
- ・大会本部組織とサブキャンプ本部の運営について検討し、ブロックでのサブキャンプ担当を依頼した。
- ・大会ホームページやジャンボリーインフォメーションの発行を通じて参加予定者の準備に必要な情報を提供した。
- ・アリーナ設備と演出業務の委託業者を選定した。
- ・参加確定申し込みを実施した。

- 成果と評価：
- ・参加予定人数について、参加隊は依頼人数とほぼ同数となったが、大会運営スタッフは必要人数の約半数に留まった。
  - ・自団の隊のままで参加する方式については、全体の約4分の1に留まった。
  - ・各専門部会の開催が秋以降に始まり、各部の具体的な業務内容とサブキャンプに関する調整、参加者に向けた情報発信が遅れている。

## IV. 長中期計画の行動計画より取り組んだ施策

### 1. コミッショナーの充実

		2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
1-1	地区コミッショナーを中心として地域の各隊をバックアップしていく体制作り	○	○	○	○	○			コミッショナー チーム
1-2	地区コミッショナー養成訓練を充実する	○	○	継続	⇒	⇒	⇒		
1-3	ラウンドテーブルの研究及び充実化を図る	○	○	○					
1-4	団担当コミッショナーの検証	○	○	判断					
1-5	現任研修開始による支援任務の強化	○	○	○	○	○	○	○	
1-6	役務推進の自己貢献確認システムの導入(役務の進行状況を自己評価する)	○	○	○	○	○			
1-7	ブロック幹事の任務強化	○	○	○	○	○	○	○	
1-8	県連盟コミッショナーの日本連盟登録	○	○	○	○	○	○		
1-9	コミッショナー制度に関しての研究諮問会議の設置	○	○	○					
1-10	各部門の質的向上	○	○	○					

1-1、1-2について、

- ・隊指導者を支援する地区コミッショナーの役務の理解促進と効果的に支援を行うため、「地区コミッショナーハンドブック」を作成し、各地における研修に活用している。

1-3について、

- ・コミッショナー活動活性化検討タスクチームにより、地区コミッショナーの業務内容について調査を行い、2018（平成30）年度は、各県連盟の定型外訓練について調査を行う。

1-4について、

- ・コミッショナー活動活性化検討タスクチームにより、コミッショナー制度全般の見直しに関する答申を受け、2018（平成30）年度に団担当コミッショナー制度の改廃について検討する。

1-5と1-6について

- ・コミッショナーの各役務別の研修については、指導者養成委員会にて検討を進めている。

1-7と1-8について、

- ・本格的な検討には至っていないが、県連盟コミッショナーの任務と業務を見直すこととして、検討を続ける。

1-9と1-10について、

- ・コミッショナー活動活性化検討タスクチームの答申を参考に、コミッショナー制度の全般的な見直しを継続して行う。

### 2. 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)

		2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
2-1	ポリシー(考え方)の制定、ガイドライン制定、登録との連動	⇒							S#H安全
2-2	問題対処法、情報収集、聴取、裁定などの実務的マニュアルの整備	○	○	○	○				S#H安全 コミ
2-3	普及、啓発のための研修、ツール開発。エラーニングの活用	○	○	○	○	○	○		S#H安全
2-4	抑止力の検討と広報活動	○	○	○	○	○	○	○	S#H安全 社・広報

2-1～2-4について、

- ・2017（平成29）年度は、「登録前研修」として事務局に相談窓口を開設し、各種の通報に対して県連盟を通じた問題解決に取り組んだ。また様々なケースの評価から、県連盟や地区における実務的な対応方法に関するガイドラインの検討を進めている。
- ・各県連盟ならびに地区においては、「セーフ・フロム・ハームセミナー運営ハンドブック」を活用した研修会を開催し、指導者が思いやりの心を育み、セーフ・フロム・ハームに関わる危害防止の意識を高めることに取り組んでいる。
- ・2018（平成30）年度に向けては、さらに充実した啓発活動を行うために、スカウティング誌の活用、啓発資料の作成、関連図書の推薦などにも取り組み、スカウトや保護者から信頼される指導者の情操面の養成に努める。

3. 指導者養成

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
3-1 3-2	1. ボーイスカウト部門の質的向上を図る 2. ハイキングやキャンプなど野外での活動を中心とした本来のスカウト教育を推進する		○	○	○	○	○	○	指導者養成
3-3	基礎訓練を全課程で共通化	○	○	○					指導者養成
3-4	ウッドクラフトコースの開設（長期野営の体得。典型的、伝統的活動の修得。スカウティングのあり方、スカウト精神（スピリット）の体得。）	○	○						タスクチーム
3-5	指導者の更新研修の確立		○	○	○	○	○	○	ディレクターチーム
3-6	任務別研修の実施（必要な人に必要な訓練を行う）		○	○	○	○			タスクチーム

3-1～3-3について

- ・2017（平成29）年度から全国で実施となったウッドバッジ研修所「スカウトコース」「課程別研修」は、参加者がボーイスカウト指導者としての責務を果たすことができるように、スカウト教育に関する基本的な内容と、隊運営に関する基礎的な方法を修得することを目的としている。
- ・スカウトコースは「ボーイスカウト指導者として修得すべき基本的な知識・技能」を学ぶ体験型の共通コースであることから、どの部門の指導者もボーイスカウト活動と野営生活の楽しさの一端を体験してもらうことができている。
- ・また、運営側の所員は、所長、隊スタッフ（隊長・副長・上級班長）、班担当所員がそれぞれ指導者としての言動の見本を示すことが重要であり、特に班担当所員は参加者に対して的確なアドバイスや技能指導ができることが求められることから各県連盟トレーニングチーム員の質の向上に繋がることが期待できる。
- ・本年度のウッドバッジ研修所は、基本型での開設は、スカウトコース24コース、課程別研修BVS課程18回、CS課程19回、BS課程19回、VS課程18回となった。一括型での開設は、15コース、課程別研修BVS課程7回、CS課程8回、BS課程11回、VS課程7回となった。団委員研修所は14コース、コミッショナー研修所は4コースの開設となった。安全セミナーは、2016（平成28）年度にウッドバッジ研修所を履修した方を対象として8回の開設となった。どの研修においても隊指導者としての任務遂行への意識を高めさせ、研修終了後もたゆまぬ努力が必要であることを強調している。開設する県連盟では、所員会議の内容や、隊運営者、班担当所員の役務内容について工夫を重ね、より良い準備と運営方法について検討を重ねる必要がある。

3-4について

- ・指導者が長期間の野営を通じ、自然の中で生活する技能を用いてスカウティングの本質的な楽しさについて再確認し、多くの体験を各地に拡げ、隊プログラムが充実していくことを目指して、2016（平成28）年度、2017（平成29）年度の2回開設して当初計画を終了した。厳しい自然環境からの学びを受けながら長期間のキャンプ生活を体験し、仲間との協働を通じてスカウト野営の醍醐味を感じ取ることが出来た。今後は、2回開催した評価を元に、定型訓練との関連や各県連盟の野営場において実施・展開できるような充実した内容を検討する。

3-5について

- ・更新制度の検討を進めるにあたり、定期的に研修を受けることを必須（規程化）とするか否か、新たな定型訓練カリキュラムを構築するか、スカウトコースへの再参加を勧奨するに留めるか、再訓練の期間なども含め、引き続き検討を行っている。

3-6について

- ・「役務を持つ全ての成人に研修の機会を与えること」という「スカウト運動における成人に関する方針」に基づき、まずコミッショナーの研修内容を中心に各種コミッショナーに必要な研修内容を検討している。また、理事等運営者に対する研修については教育、組織拡充、財政など多方面にわたることが考えられることから、研修ニーズについて調査の検討を行っている。

#### 4. 地域コミュニティづくり

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
4-1	スカウト運動の組織拡充を図りながら、地域連携の強化	23WSJで連携した折鶴キャラバン、平成28年度の防災キャラバンを活かしながら地域の拠点づくりを行い、地域の青少年活動の中心的役割を示す。	○	○	○	○	○	○		団支援・組織拡充
4-2	未組織地域にスカウト団の発足、新しい団(隊)づくり、拠点づくり	登録200人以下の県連を積極的に支援し、3年以内で新規団を必ず発回させる。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	団支援・組織拡充
4-3	日本連盟による各自治体訪問や自治体首長、教育関係者との懇談会などの開催	全国の首長等訪問・懇談を積極的に展開し、起点にし、青少年育成、アウトドア教育、防災教育等、地域と一体化する活動の拠点づくりを提言、実行に導く。	○	○	○	○	○	○		役員事務局
4-4	防災活動の地域連携による取り組み	国、自治体、住民の協力を得るなどして、地域防災の取り組みを図る。	○	○	○					SF安全防災危機管理

##### 4-1 について

- ・47 全都道府県連盟の協力を得て、全国69会場で「防災キャラバン」を実施した。折鶴キャラバンから数えると3年目となる継続事業となった。前々回、前回よりさらに会場数を増やしての展開となり、各県連盟でもイオンモール各店舗との連携や消防等とのコラボなどの試みも広がり、地域社会とのつながりを深めた。このことがきっかけとなり、入隊につながる例が増えた。
- ・また防災の日に向けた今回のキャラバンのPR用イベントとして、野口聡一宇宙飛行士を米国から招請し、イオンモールの本拠地である千葉・幕張でのイベントでは400人の聴衆を得て各種のメディアにも取り上げられ、スカウト運動の社会アピランスの向上に貢献した。
- ・団支援・組織拡充委員会では、組織拡充モデル県連盟の秋田県連盟・高知県連盟において、委員会として防災キャラバン開催の支援を行った。

##### 4-2、4-3 について

- ・団支援・組織拡充委員会では、組織拡充モデル県連盟の秋田県連盟・高知県連盟において、県教育委員会、市教育委員会、商工会議所、青年会議所、地元メディア関係他を訪問し、協力・支援要請を行った。昨年度に引き続き各所訪問は、ボーイスカウト運動をご理解いただくための説明が中心であったが、次年度には、新団を発足できるように準備を進めている。

##### 4-4 について

- ・「防災危機管理タスクチーム」により、「防災・危機管理の取り組みに関するアンケート調査」を行い、県連盟・地区・団における取り組み状況の調査を行った。
- ・スカウトが防災に関するスキル取得について興味を持って行えるような施策や、指導者に対する支援方法について検討した。

#### 5. プログラムの見直し

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
5-1	BS部門・VS部門一体化を含むプログラム見直し	両部門の進歩課程のシームレス化を図る。部門の一体化を推進する。	○	○	○					プログラム
5-2	現状の青少年の発達段階や学校学年制などを考慮した部門の見直し	研究者を交えて検討を行う。部門の設定。	○	○	移行					
5-3	進歩の見直しターゲットバッジ・マスターバッジの発展的廃止	進歩課程の改定による移行時期満了による廃止。		○	○	○	廃止			
5-4	企業と連携したバッジシステムの共同開発	社会で活用できる技能の修得のため、企業と連携し、章の共同開発をする。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	
5-5	全ての部門での野外活動の拡大	教育効果の高い、アウトドア活動を展開する。特にBS部門以上は本来活動を行うため長期野営を進める方策を考え、実施する。	○	○	○	○	○	○	○	
5-5	教育部門を次の4部門への移行検討	BVS部門(遊育エンター部門)、CS部門、BS部門(現行BS+現行VS)、RS部門(研究・社会貢献部門)。現行部門の状況と活動のあり方を研究し、移行を検討する(特にBVS部門とRS部門)。	○	○	○					

##### 5-1 について

- ・9月からの移行開始に向けて、全国大会のテーマ別集会や各地での新進級課程に関する説明会を開催した。また、移行要領、移行のためのリーダーハンドブック、進級課目読み替え表を作成し、新進級課程の特設ホームページに掲載した他、説明会で行われた質疑をQ&Aにまとめ掲載した。
- ・新進級課程に伴う新記章、進級手帳、技能を補足する進歩の手引き、面接・認証申請書を作成した。
- ・一本化された進級課程の現行の両部門での取り組みを周知するとともに、部門の一体化について、過年度の検討

内容を精査していくこととした。

#### 5-2について

- ・コミッショナーのものとタスクチームとして、教育関係者有識者会議（仮称）を設置することとし、その編成を調整している。
- ・プログラム委員会のタスクチームとして、前年度見直したBVS部門とCS部門の新たな年齢区分によるプログラムについて、教育関係者へのヒアリングを踏まえて次年度に実証ができるよう内容について検討した。

#### 5-3について

- ・新たな進級課程の選択課目は技能章とし、移行完了とともに廃止することとした。既に公示された新技能章の他に、現在の青少年が関心のある職業や資格に通じる新たな技能章を検討した。
- ・タスクチームにて、BS部門の新たなスカウトハンドブックについて検討した。

#### 5-4について

- ・社会連携・広報委員会（部）と連携して、カブスカウト部門向けのバッジプログラムを2社と検討・調整した。

#### 5-5について

- ・進級課程検討の中で教育効果の高いアウトドア活動を展開、長期野営を進める方策の検討を行っている。

#### 5-6について

- ・年齢区分を含めた部門の見直しについて、県連盟コミッショナー会議にて説明し、意見聴取を行った。ビーバー部門を遊育エントリー部門とした「訓育、活動の目標、活動の実施」の改正案を作成した。
- ・タスクチームで前年度見直したBVS部門・CS部門のプログラムや進歩課目の実証について、その範囲や期間、実証方法等を検討した。

### 6. 登録制度の見直し

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
6-1	隊登録できる最低スカウト人数の検討		○	○	○	○			団支援・組織拡充プログラム コミッショナー 財務
6-2	地域性を考慮した隊・団のあり方		○	○	○				
6-3	部門の検討に伴う各部門の登録の見直し(特にBVS登録、RS登録)		○	○	○				

#### 6-1、6-2について

- ・登録制度の見直しは、前項のプログラムの見直しに応じて進める必要があり、状況を把握している段階である。地域性を考慮した隊・団のあり方、加盟登録の在り方・仕組、スカウトがなく休団した団の指導者をどう残せるか（スカウトクラブの在り方）等の検討を開始した。次年度より具体的な検討を進めていく。

#### 6-3について

- ・財政と登録人口面か登録料改定がスカウト・指導者別に2019（平成30）年度から実施されることになったが、部門別の登録の仕方については、プログラムの見直しとともに検討される。

### 7. スカウティングにおける成人の役割

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
7-1	多彩で多様な人材を確保するためのスカウティングにおける成人のライフサイクルの定着化		○	○					指導者養成 コミッショナー
7-2	インサービスサポートの推進(いつでも、だれでも、必要なトレーニングを受けられる)		○	○	○	○	○		コミッショナー 指導者養成
7-3	23WSJに参加・参画した人材を活用する。(人材の多様性を図る)		○	○	○				国際
7-4	幅広い人材の登用(特に若いユース等の県連・日連への登用)		○	○	○				プログラム コミッショナー 国際
7-5	ローバーの育成		○	○	○				

#### 7-1について

- ・指導者の任務期間の長期化の解消や、新規指導者の獲得と養成を行うために、当連盟における成人のライフサイクルを確立し、定着化を目指している。

- 7-2について、
- ・隊指導者の日常の活動に対するトレーナーの個別支援が指導者の資質の向上に資する取り組みとして、適切な支援が出来るよう、今後も全国県連盟コミッショナー会議やトレーナー研究集会などにおいてインサービス・サポートの推進を奨励していく。
- 7-3について、
- ・23WSJに参加あるいは支援した人を含み、2017（平成29）年度は日韓スカウト交歓計画の運営に関わる機会とともに、国際サービスチーム員（登録制）による国際交流のサポート体制を整えた。
- 7-4について、
- ・RCJ運営委員会のメンバーが全国大会、スカウト教育推進会議等に出席・参席する等、日本連盟での参画の機会を設けている。また、企業への協力依頼を進める中で、加盟員以外に理解者を増やしている。
- 7-5について、
- ローバースカウト年代のネットワークを活かして派遣情報を共有し、参加者を募り、今年度は次のとおり派遣した。
- ・第13回世界スカウトフォーラム派遣  
アゼルバイジャン・ガバラ 8月5日～8月21日 代表スカウト1人・オブザーバー3人
  - ・第41回世界スカウト会議派遣  
アゼルバイジャン・バクー 8月14日～8月18日 青年代表1人・オブザーバー3人
  - ・第15回世界スカウトムート派遣  
アイスランド 7月25日～8月2日 指導者2人・スカウト17
  - ・インターアメリカ地域主催リーダーシップトレーニング派遣  
エクアドル・キト 12月28日～1月3日 スカウト2人

## 8. 情報伝達手段の刷新

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
8-1	ICTを一層活用しコミュニケーションを促進し、意思決定や情報伝達に役立てる								事務局 ICT タスクチーム
8-2	各県連盟向けポータルサイトによる情報発信	○	○	○	○	○			
8-3	グループウェアを利用した掲示板、ファイル共有、会議・事業スケジュールなどの共有								

### 8-1について

- ・大手インターネットサービス企業の、非営利団体向けに提供されている無償化または低価格化プログラムを享受できることが決まった。今後、各県連盟事務局との連携を始めとし、各委員会や事務局で作成したリソースを全国の加盟員が使える資産とできるよう、具体的な検討を進めている。

### 8-2について

- ・ICTタスクチーム以外でも、社会連携・広報委員会の定例会において、遠方の委員による出席をテレビ会議システムにより置き換え、効率化できた。
- ・引き続き、会議の特性に合わせ各種会議で活用を拡げていく。
- ・社会連携・広報委員会では隔週開催の定例ミーティングで遠隔在住委員がほぼ毎回ネット参加。本格導入を進めコストダウンを伴う密なコミュニケーションを確立している。

### 8-3について

- ・社会連携・広報委員会では隔週開催の定例ミーティングで完全導入。ペーパー類は一切配布していない。
- ・ペーパーレスの確立とあわせ、会議資料アーカイブの電子共有にも進んでいる。

## 9. 組織体制の検討

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
9-1	長中期計画に基づく施策展開を行う上で、必要な組織的対応を行っていく	○	○	○	○	○	○	○	理事会 他
9-2	23WSJで構築してきた「企業・行政との関係」などを継続できる組織作り（「企業連携」「公益性」を意識した組織）	○	○	○	○	○			事務局
9-3	日本連盟と県連盟の役割→それぞれにしかできない業務を強化	○	○	○					事務局
9-4	100周年基金の設立	○	○	○					事務局

9-1について

- ・「財政再建及び組織改革の基本方針」において、組織体制の見直しを開始した。

9-2について

- ・17NSJを話題の端緒に、100周年に向けた協力を得られるよう、23WSJ関連、維持会員関連等の企業リストを統合しアタックリストを作成した。2017（平成29）年度内に挨拶状を発送し、2018（平成30）年度に協力依頼まわりを進める。
- ・財政ビジョンへの取り組みに関連して、企業からの寄付を募るための新たなチーム編成について、理事長からの進言もあり、この具体化を進める段階となっている。

9-3について

- ・県連盟に関する教育規程の改正を行い、各県連盟との連携をより強化した。

9-4について

- ・100周年記念事業準備委員会にて基金の構想等を検討したが、具体化までは至っていない。引き続き具体化を進める。

10. 国家資格認定制度へのチャレンジ

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
10-1	BSのノウハウを活かした野外活動指導資格制度	野外活動の指導者資格をBS独自で立ち上げ、社会で認知される資格に構築する。	○	○	○	○	○			事務局 他
10-2	BS教育を活かした各種研修を社会への提供	BSの研修形式を活かした企業の初任者研修等にチャレンジする。	○	○	○	○	○	○		事務局 他

10-1について

- ・BS独自の野外活動指導資格については、今後の検討課題としている。

10-2について

- ・企業・団体向けの研修システムについては2月に山口県の無人島において、山口県連盟・愛媛県連盟からの奉仕スタッフも得ながら、企業側参加者33人による1泊2日の野営研修事業の試行を行った。また都内での日帰り研修等の企画を進め導入のための営業試行活動を行った。
- ・研修プログラムのメニュー化、営業ツール等を整備しながら収益事業化も含め、更に導入のための試みを進める。

11. 公益事業の取り組み

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
11-1	運動内関係者にとどまらない表彰制度の検討と導入	組織外の方々に、優れた方を表彰する制度を立ち上げる。	○	○	○	⇒	⇒	⇒	⇒	事務局
11-2	善行の日常化の推進	善行が日常的な国民活動となるよう、計画、実行を進める。	○	○	○	○	○			コミッショナー プログラム 社・広報 事務局
11-3	新しい公益事業の取り組み	ローバー年代を中心に新公益事業を考え、打ち出す。	○	○	○	○	○			プログラム 事務局
11-4	11-4. 現代青少年の研究	教育有識者会議を編成し、研究する。	○	○						プログラム 事務局

11-1について

- ・加盟員外への表彰を含めた維持会員年功章の仕組みを立案し、導入の機関決定を受けた。2018（平成30）年度からの施行に向けて表彰準備を進めている。

11-2について

- ・連盟のフェイスブックページ等で「善行」関連のトピックを随時紹介し、意識高揚を図った。
- ・PR計画では「なろう。一人前に。」をキャッチフレーズに各種キャンペーンを展開した。「人の役に立つ」ことがボーイスカウトのアイデンティティであることの普及を内外に発信した。

11-3について

- ・プログラム委員会、RCJを中心に今後検討を進める。

11-4について

- ・現代の青少年に関する調査、分析等の研究を、前年度からの2年度で「教育有識者会議」を編成し行うことになっていたが、青少年に関連するさまざまな分野からの専門家の協力を得ての有識者会議は編成に至らなかった。ただし、青少年研究の一環として、ボーイスカウトにおける教育効果の測定を大学研究者等による研究ユニットに協力し、ボーイスカウト隊での1年間の体験が青少年にどのような影響を与えるかの調査を行った。2016

(平成28)年度より準備を進め、2017(平成29)年度開始時期にアンケートを行い、回答集計を行った。プログラム終了時期の第2回目アンケートについては、2018(平成30)年度早々に行い、集計し、1年間の体験の影響について分析、発表を行う予定。教育有識者会議については、この集計分析などを用いて2018(平成30)年度からの着手となる。

## 12. 野外活動施設の確保

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
12-1	活動的で冒険的な野外活動拠点となる施設の確保と充実(野営基準見直しによる「ボーイスカウト野外活動施設」ガイドラインづくり)	「野営基準」の見直しとともにBS用「施設ガイドライン」を検討する。		○	○	○	○			プログラム タスクチーム 事務局
12-2	日本連盟野営施設の充実(ガイドラインに沿った開発、整備し「これがBSキャンプだ」のモデル化をする)	高萩フィールドなどモデル野営地をつくる。		○	○					
12-3	ボーイスカウト優良野外活動施設認証基準を定めて認証し、県連盟野営場などへ拡大	(平成30年度以降の取り組み) 日連で優良基準を定め、適合野営地を優良認証する。			○	○	○	○		
12-4	プログラムパッケージの開発と提供	野外活動を重視した集会パッケージの開発		○	○	○	提供	⇒	⇒	
12-5	スカウトキャンプの体験、学校の課外授業、企業研修の提供	国家資格とチャレンジと併せ学校の課外授業の提供を検討する。	○	○	○	○	○	○		
12-6	ユーストレーニング(次世代のスタッフトレーニング)を検討	FHAのスタッフや高萩フィールドでのワークキャンプを通じてスタッフの育成やユースのためのトレーニングを検討する。	○	○	○	○	○	○	○	
12-7	施設を通じたパートナーシップの構築(自治体、企業、学校、教育機関、他団体、国(文部科学省、環境省、林野庁等))	諸施設を通じて関係機関とパートナーシップの構築を図る。	○	○	○					
12-8	ジャンボリー会場となりうる土地の確保	80万坪規模の常設ジャンボリー野営地を探す。	○	○	○	○	○	○	○	

### 12-1 について

- 活動的で冒険的な野外活動の拠点として、高萩スカウトフィールドの施設の充実を図った。「野営基準」の見直しと「施設ガイドライン」は今後の検討課題としている。

### 12-2 について

- 高萩スカウトフィールドにサマーキャンプ等プログラム提供の場を常設し、モデル化を進める。

### 12-3 について

- 2018(平成30)年度からの取り組みとして、優良野外活動施設認証基準を検討する。

### 12-4 について

- 2018(平成30)年度からプログラム委員会でプログラムパッケージの検討を進める。

### 12-5 について

- 2017(平成29)年度も地球環境基金の助成を得て、地域の小学校4校から延べ449人が参加して、授業の一環として、自然体験教室を実施し、その活動を通じてプログラム開発を行った。
- 2015(平成27)年度から3カ年取り組んだ自然体験教室の成果を取りまとめて事業評価を行い、エコプロ2018にて報告した。

### 12-6 について

- 「富士特別野営2017」にて大会本部プログラム班に過去の参加者を含むローバースカウトを受け入れ、実際に展開されるプログラムを体験することを通じて訓練を実施した。

### 12-7 について

- 諸施設を通じて関係機関とパートナーシップの構築を図っている。

### 12-8 について

- 候補地となっている関係県庁との調整は停滞していることから、今後新たな候補地を探す必要もある。



## V. 一般事業の取り組み

### 1. 主として団に関する事業（団－1～16）

*重点施策・重点事業に含まれるものを除く		所管組織					
		日	県	地	団		
主として団に関する事業	1	スカウトの信仰を奨励する。(信仰奨励委員会・宗教関係者の会)		◎	◎	◎	◎
	2	礼儀(挨拶)と規律(基本動作とスマートネス)を基準に基づいて確実に指導する。(日コミ・県コミ・地区コミ)		○	◎	◎	◎
	3	公共のマナーの大切さについて理解を喚起する。(日コミ・県コミ・地区コミ)					
	4	スカウトの「日日の善行」を班・隊活動のほか日常生活の中でも促進する。(隊)					◎
	5	班・隊・団・地区・県連としての地域奉仕活動のほか、地域団体とも協力して行う。			○	○	○
	6	震災等の復興支援活動を展開する。(団、地区、県連、日連)		○	○	○	○
	7	「スカウトの日」には各種奉仕を中心とした活動を積極的に展開する。(プ・県連) (地域各種団体とも協力して地域の奉仕活動や老人ホーム訪問等を推進する。)		○	○	○	○
	8	スカウトゲーム集、スカウトソング集を活用する。(プ)		○	◎	◎	◎
	9	第60回JOTA、第21回JOTIへの参加を推進する。(プ)		○	○		○
	10	英国エディンバラ公国際アワード(プログラム)の推進を図る。(プ)		◎	○	○	◎
	11	県連盟コミッショナー推進のアクションプランの実施・状況を確認し継続する。(日コミ・県コミ)		○	○	○	◎
	12	BVS・CS部門からの上進率を高める施策を検討し(プ、県コミ)、隊、団がこれを活用する。 県連盟・地区は団・隊が有効活用できるよう支援を行う。		◎	○	○	◎
	13	隊長と保護者のコミュニケーションを一層密にする。(スカウトの成長などについて)					○
	14	団・隊はスカウト・保護者に対して、「スカウト活動に関するアンケート」を活用する。(団・組) 県連盟・地区は有効活用の支援を行う。		○	○	○	◎
	15	各団で説明会の普及を図る。県連盟・地区は団が有効活用できるよう支援を行う。 (団、県連盟、地区)			○	○	◎
	16	『スカウティング』誌の充実を図り(社・広)、隊団での有効活用を促進する。(コミ) (隊・団指導者に向けた「スカウト教育法」の理解・応用に具体的に役立つ記事や保護者の理解促進に資する記事を掲載する)		○			○

団－1：信仰奨励委員会で、宗教章授与基準を設置していない教宗派でも取得できる仕組み等、信仰奨励、普及のための検討を行った。  
 ・委員が分担してスカウティング誌に信仰奨励を図る記事を執筆、掲載した。  
 ・5月の全国大会時に「宗教関係者の会」年次総会（出席会員10人）を行った。現在の会員数42人。  
 ・本年度は345人が宗教章を取得した（前年度取得者401人）。

団－2：定型訓練の参考資料として改訂した「基本動作・礼式の基準」を各地における基本動作の指導に活用している。

団－3：公共のマナーの大切さについては、「日本連盟コミッショナー通達（夏季の諸活動・冬季の諸活動）」により、各県連盟を通じて周知している。

団－4：各団・隊で「日々の善行」を日常生活の中で出来るよう取り組んでいる

団－5：「スカウトの日」の実施を通じて、地域奉仕活動を地域団体や地域行政などとも協力して進めることについて奨励を行ったが、通年を通じた取り組みなど、今後も継続して促進を進める必要がある。

団－6：復興支援活動に関連して、災害時の募金活動等が行われた。

団－7：「スカウトの日」は9月18日（第3月曜日敬老の日）に一般財団法人セブンイレブン記念財団の協賛、文部科学省・環境省・厚生労働省の後援をいただき、テーマ“地球大好き！ I Love the Earth.”のもと、「日々の善行」の一環として全国の加盟団・隊のスカウト・指導者が、奉仕活動としてさまざまな社会貢献活動を展開した。地域住民の方と取組み、ボーイスカウト活動を広く周知するため、申し込みのあった団・隊には、コミュニケーションロゴを入れた「絆創膏」と参加記念バッジを参加人数に応じて配付した。参加報告集計結果は、参加団539団、参加者19,278人であった。  
 ＊2017（平成29）年度実績748団、25,335人  
 2016（平成28）年度から事前申し込みと実施報告をインターネットのみの受付としたため、実際に

活動を実施したもののインターネットの入力に対応できない団があり、報告数が減少したと考えられる。この取り組みを広く一般に周知するため、日本最大級の環境展示会「エコプロ2017」にブース出展し発信した。環境保全・環境美化活動以外にも、地域の奉仕活動が展開されるよう検討している。

- 団-8：スカウトゲーム集、スカウトソング集を活用については、隊、団活動の更なる推進の一環として、隊指導者の実践に役立つツールとして「スカウトゲーム集」を2014（平成26）年度に発行し、これが活用され、より楽しい魅力的な隊活動となるようゲーム集の周知を図っている。このゲーム集は、これまでに2刷（年間頒布数796冊・前年度478冊）を発行し、多くの指導者に活用されている。
- 団-9：第60回JOTA、第21回JOTIは、次のとおり実施された。
- ・世界スカウト機構が主催する公式国際行事として“60 Years Connecting Scouts”のテーマのもと、世界中のスカウト関係者が、無線交信やインターネット接続での情報交換により、お互いを理解し知識と友情を深めた。
  - ・開催日時：10月20日（金）00：00～22日（日）24：00 72時間
  - ・日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブ協力のもと、東京・ボーイスカウト会館に無線機等を設置して、2泊3日の期間、運用・参加した。
  - ・台風の影響により、例年交信しているキャンプ場移動局との交信はできなかった。  
日本連盟での運用・見学者は、3日間で延べ70人、国内の運用・参加について、23県連盟64人から報告があり、延べ1,114人が参加・見学した。前年度となる2016（平成28）年度は67件、延べ883人であった。  
参加の内訳としては、JOTA参加が26件、JOTI参加が17件、両方への参加が21件、計64件で、参加スカウト447人、参加指導者・支援者366人、見学者127人であった。  
参加人数は昨年度から若干上回り、JOTA・JOTI両方に参加する形態が増えた。
- 団-10：英国エディンバラ公国際アワード（プログラム）は、140以上の国と地域で展開され、800万人以上の青少年が参加し世界的にも認められている本プログラムをローバースカウトおよび同年代の指導者に提供を引き続き実施し、プログラムの推進や推奨を行っている。2017（平成29）年度は、新たに3人（前年度10人）のスカウトが参加登録し、延べ35人のスカウトがアワード取得に向けて取り組んだ。2017（平成29）年度、計6人（ゴールド1人、シルバー3人、ゴールド2人）のスカウトが修了し、2013（平成25）年度の開始以来、初めての修了者となった。
- 団-11：2017（平成29）年度は、全国県連盟コミッショナー会議において、各県連盟コミッショナーのアクションプランの発表はなかったが、各県連盟においては継続して取り組みが行われており、各地区・団のさまざまな状況の把握に努めている。
- 団-12：カブスカウト部門の一部プログラム改正と上進時期の変更について、県連盟コミッショナーを通じて各団・隊の移行完了について周知を図った。
- 団-13：新規加盟員の獲得と中途退団を抑止するためにヒントを加盟団に提供することを目的として、団支援・組織拡充委員会の下に「母親世代タスクチーム」を編成し、2016（平成28）年11月から2017（平成29）年12月の間に5回の会議を行った。その結果を「報告書－母親の本音から探る新規加盟員獲得と中途退団防止の14のポイント」として取りまとめたので活用を進めたい。
- 団-14：「スカウト活動に関する満足度調査」は、既に実施している団があるが、より効果的に進められるよう内容の見直しを進めている。
- 団-15：「団-13」と同様に、説明会でも「報告書－母親の本音から探る新規加盟員獲得と中途退団防止の14のポイント」の活用を進めたい。
- 団-16：スカウティング誌の充実については毎号質の高い情報提供を試みた。なお費用面で印刷物として届けられない保護者ほか関係者にも閲覧いただけるよう、1月号よりPDF版のデジタル配信を開始。活用の幅を広げていただけるよう試みている。

## 2. 主として県連盟・地区に関する事業（県－１～１０）

	一般事業	所管組織				
		日	県	地	団	
主として 県連盟・ 地区 事業	1	各種訓練機関(BS講習会、WB研修所、安全セミナー、WB実修所、団委員実修所など)を実施する。(指)	◎	◎	○	
	2	「スキルトレーニング」への積極的な取り組みを促進し、上級訓練への参加者数を増加させる。(指)		◎	○	○
	3	隊長の当該隊指導者上級訓練課程への参加を促進する。(指、コミ)		◎	○	○
	4	指導者の資質向上を図る。(指・県コミ)	◎	◎		
	5	特に若手指導者を表彰できるようにする。(日コミ・県コミ)	◎	◎		
	6	団・地区・県連盟に「組織拡充担当」を置き各組織にて会員拡充を推進する。(団・組)		◎	○	○
	7	組織間の訪問を推進する。日連→県連、県連→地区、地区→団	◎	◎	◎	
	8	アウトドアチャレンジ事業を県連盟独自事業として展開する。		○		
	9	安全促進(基幹)フォーラムを開催する。(SfH・安)	○	◎		
	10	「セーフ・フロム・ハーム」セミナーを開催する。(SfH・安)		◎	○	

県－１：新訓練体系に基づく各種訓練を全国各地で実施した。

### ウッドバッジ研修所「スカウトコース」(39コース)

- ・全国展開初年度であることから、運営側がコースの目的・目標をよく理解し、参加者の研修効果が上がるよう効果的な支援をおこなった。
- ・セッションの運営に関しては、コースの開設地域に応じた工夫がなされ、参加者の理解を生む努力が行われている。

### ウッドバッジ研修所「課程別研修」(のべ99回)

- ・青少年の年代別の特性や各部門の隊運営や進歩制度の特徴、プログラムの立案について学ぶ内容となっている。
- ・課程別研修を履修することで「隊指導者基礎訓練課程」の修了となり、上級訓練へとモチベーションを維持し、さらに自己研鑽に励むことが期待される。

### 団委員研修所(15コース)

- ・団委員の実務を中心とした研修内容であることから、団の組織と運営の概要について理解し、団委員会、団会議の機能と連携や各隊活動への支援、団委員会の業務について理解する内容となっている。セッションの運営については、参加者の状況や地域差により所長の適切な対応が行われている。

### コミッショナー研修所(3コース)

- ・コミッショナーとして、隊・団の現状を把握し、支援を行うことの重要性の理解と、業務の流れ、コミッショナーに求められる知識、技能、態度などに関する理解を深めることにポイントを置いた研修内容となっている。セッションの展開方法については参加者の状況や、地域差により所長の指導に任せている。

県－２：スカウトへの野外活動指導力を高め、プログラム企画力の幅を広げるために、スキルトレーニングを設置している。このスキルトレーニングの履修認定作業を広く、きめ細かく実施するため、各県連盟の推薦による「スキルアップアドバイザー(スキルトレーニング履修認定者)」を委嘱し、日本連盟トレーナーを必要数確保できない県連盟の指導者がスキルトレーニングに取り組み易くしている。引き続き指導者の資質向上のためにスキルトレーニングの積極的な取り組みを推進する。

県－３：指導者自身の自己研鑽や、任務変更のために新たに上級訓練課程への参加が求められる指導者に対しては、各県連盟の協力を得て上級訓練の内容を周知し、必要な研修への参加について勧奨する。県連盟ディレクター研究集会において上級訓練への参加状況を示し、あらためてスキルトレーニング設置の意義を説明し、各県における上級訓練課程への参加促進を行った。各県連盟において第一教程への取り組み状況を十分に支援し、計画的に第二教程への参加希望者の確保が必要である。

県－４：全国の指導者の資質向上のため、隊・団への継続的な支援を行う。各県連盟において、インサービス・サポート(指導者の任務中の支援)の充実に努めることにより、指導者一人ひとりが自己研鑽によって知識・技能・心構えを高め、日常の活動の充実や団の発展に寄与できるよう、継続して支援を行う。

県－５：ボーイスカウト振興国会議員連盟表彰で若手指導者を表彰できるようにしている。

県－６：「組織拡充担当」を団・地区・県連盟に置き組織拡充を推進することについては、団支援・組織拡充委員会を全国の組織拡充担当委員長会合を11月11日・12日に開催し、推進を依頼した。

県－7：組織間の訪問を推進することについて、日本連盟から県連盟へは、団支援・組織拡充委員会において組織拡充モデル県連盟として、秋田県連盟、山口県連盟、高知県連盟を訪問した。またこの他に群馬県連盟、新潟連盟、奈良県連盟、徳島連盟、福岡県連盟を訪問し、団支援・組織拡充についての講演等を行った。県連盟から地区、地区から団への訪問は、各県連盟で推進している。

県－8：2014（平成26）年度より事業を自然体験推進協議会（CONE）に事務局運営を移管し、実施する都道府県連盟とODC事務局とで実際に事業を進めている。2017（平成29）年度も日本連盟として事業に対する直接的な関わりは行わず、実施する。連盟組織内へはCONEに移管したODC事務局が運営を働きかけている。日本連盟としては事業権を保持しているため、今後の本事業の方向性について引き続き検討を行っている。

県－9：安全促進（基幹）フォーラムは、ボーイスカウト活動における安全の促進により、事故発生件数の低減化を図ること、日本連盟が構築した「安全確保と補償のシステムループ」の理解を広めること、蓄積された事故実績データの有効活用を図ることを目的に開催している。更に、基幹フォーラムに参加した指導者による安全促進拡大フォーラムを開催している。

#### 2017（平成29）年度安全促進（基幹）フォーラム：

5会場で開催、175人が参加

①和歌山会場	6月18日（日）和歌山市河南コミュニティーセンター	参加者48人
②宮城会場	7月9日（日）宮城県連盟事務局	参加者29人
③東京会場	9月10日（日）ボーイスカウト会館	参加者33人
④千葉会場	9月24日（日）佐倉市立中央公民館	参加者29人
⑤群馬会場	2月25日（日）群馬県青少年会館	参加者36人

2009年（平成21）年度から始まったこのフォーラムは、2017（平成29）年度末までに、42回（参加43県連盟）で開催され、延べ1,831人が参加している

#### 2017（平成29）年度安全促進拡大フォーラム：

6会場で開催、104人が参加

①大阪会場	5月28日（日）吹田市自然体験交流センター	参加者12人
②千葉会場	6月18日（日）船橋市高根台公民館	参加者17人
③静岡会場	12月3日（日）磐田市豊田福祉センター	参加者13人
④千葉会場	1月21日（日）君津市上総地域交流センター	参加者29人
⑤千葉会場	3月11日（日）千葉市中央コミュニティーセンター	参加者13人
⑥東京会場	3月10日（土）台東区浅草寺普門会館	参加者20人

2010年（平成22）年度から始まった拡大フォーラムは、2017（平成29）年度末までに、40回（延べ12県連盟）で開催され、1,050人が参加している

県－10：セーフ・フロム・ハームガイドブックを活用したセミナーの県連盟・地区における開催を推奨し、「指導者としての取り組み」「問題の発生と対応」などについて参加者が意見交換することにより、これまでの言動を見直し、質の高い活動へ取り組むよう指導者の意識の変革を図っている。

3. 主として日本連盟に関する事業（日－1～48）

	一般事業	所管組織			
		日	県	地	団
1	新しいユニフォームについて全部門への移行を促進する。	○			
2	隊活動の標準展開例のツールを作成する。(プ)	○			
3	富士スカウトを顕彰する。(代表表敬)(プ)	◎	○	○	○
4	全国ローバースカウト会議(RCJ)を通じてローバースカウト活動の活性化を図る。(プ)	◎	○	○	○
5	RS部門の在り方について方向性を検討し、確定する(プ)	◎			
6	RS年代の全国組織を活かした活動を推進し、RCJフォーラムを開催する。(プ・日コミ)	○			
7	英国エディンバラ国際アワードリーダー研修会を開催する。(プ)	◎			○
8	海外派遣事業を実施する。(国)	◎	○	○	○
9	海外スカウト受入事業を推進する。(国)	◎	○	○	○
10	国際活動サービスチームの活動を推進する。(外国スカウト案内、海外派遣支援、翻訳協力等)(国)	○			
11	イン・サービス・サポート(指導者への任務中の支援)充実のため、各種資料を作成する。(指)	○			
12	日本連盟トレーニングチームの充実を図る。(指)	○			
13	トレーナー研究集会、トレーナー訓練を実施する。(指)	◎	○		
14	新任トレーナーを養成する。(指)	○			
15	平成29年度全国大会を開催し、指導者としての研鑽を積む。(鳥取県鳥取市)	◎	○	○	○
16	組織拡充モデル県連盟を数県連指定して日本連盟と一体となって組織拡充を推進する。(団・組)	◎	○	○	○
17	募集説明会用に手持ちのものを再編集して活用できるツールを作成する。(社・広)	○			
18	全国組織拡充担当委員長会合を開催する。(団・組)	◎	○		
19	組織拡充顕彰を実施する。(団・組)	○			
20	中途退団数の実人数を把握する。(事)	○			
21	組織を挙げての広報活動を対外部に向けて実施する。(社・広、県連・地区そして団) そして、ボーイスカウトの認知度を上げ、会員を増やし日本のスカウト運動を活性化させる。	◎	○	○	○
22	目的を明確にした広報資料を作成する。(社・広) (a ボーイスカウトとは、一般的なもの b 新規募集のためのもの、最終ページを県・団などで加工できるようにする c 入団した保護者向けのもの)	○			
23	スカウト運動のイメージを社会に広める。(社・広)	○			
24	すべてのスカウト保護者向け資料の提供を検討する。(社・広)	◎			○
25	ホームページ等電子媒体の充実と活用を図る。(社・広)	◎			○
26	全国BS写真コンテストを実施する。(社・広)	◎			○
27	新刊書籍・資料の検討を行い発行する。(プ、指、社・広)	○			
28	WOSM・外国連盟資料を翻訳し出版する。(プ、指、社・広)	○			
29	絶版書籍の再版を検討し実施する。(プ、指、社・広)	◎			○
30	各種ハンドブックの内容改訂を行う。(関連委員会)	○			
31	スカウト歌集の編纂を検討する。(ソ)	○			
32	スカウトソング研修会を開催する。(ソ)	◎			
33	維持会員入会促進活動等を推進する。(事)	○			
34	ボーイスカウトカードへの入会促進を図る。(事)	○			
35	遺贈システムのPRと促進を図る。(事)	○			
36	世界スカウト財団・APR財団への支援を行う。(事)	○			
37	スカウトライオンズ/スカウトロータリアン入会促進活動等を推進する(事)	○			
38	ともに進もう(ひとり親家庭等応援)助成プログラムを促進する。(社・広、財)	◎	○	○	○
39	書き損じはがき等回収による「もったいない寄附」を促進する。(社・広、財)	◎	○	○	○
40	23WSJで構築した募金ネットワークを継承し活用する。(社・広、財)	◎			
41	行政・民間からの委託・助成事業を獲得する。(事)	○			
42	東京オリンピック・パラリンピック支援への準備に取り組む。(事)	○			
43	新しい野営場用地の確保のためプロジェクトチームを設置し検討を進める。(PT) (日本ジャンボリーなど開催可能な常設キャンプ場や指導者訓練野営場の確保を目指す)	○			
44	静岡県立富士山麓山の村施設の活用を促進する。(事)	◎	○	○	○
45	野営場整備について各県連盟等の自主的協力も促進しつつ、 全国の加盟員がプログラムとして活用することを推進する。(PT、プ)	◎	○	○	○
46	平成29年度以降の安全促進フォーラム内容の検討を行う。(SfH・安)	○			
47	防災・危機管理に関する提言を具現化する。(防危)	◎	○		
48	「共済事業」の運用を行う。(共済委員会)	◎	○	○	◎

主として日本連盟事業

日－1：2017（平成29）年度は、新しいユニフォーム販売の2年目となった。ビーバースカウト、カブスカウトの両部門は新しいユニフォームへの移行が順調に進んでいる。ボーイスカウト部門以上は、加盟員数の約55%まで移行が進んでいる。これまでのユニフォームは2018年（平成30）年8月末日までの着用となるため、新しいユニフォームへの移行を促進する。

日－2：ボーイスカウト部門・ベンチャースカウト部門の新進級課程と連動したプログラム立案の手引きを検討している。

日－3：富士スカウトの顕彰（代表表敬）は、次のとおり実施した。

- ・富士スカウト代表による国の主要機関への表敬訪問を行い、スカウト自身の情熱の喚起と社会貢献意欲を向上させることを目的に開催した。
- ・2017（平成29）年1月1日から12月31日までに富士スカウト章を受章した32県連盟165人のスカウトを事業対象者とし、その中から県連盟に推薦された代表スカウト94人により実施した。

〈東宮御所表敬〉

日 時：2018（平成30）年4月5日（木）14:30～15:20（東宮御所日月の間）

参加者：代表スカウト31県連盟47人

〈首相官邸・文部科学省表敬〉

日 時：2017（平成29）年3月27日（火）11:40～12:00（文部科学省）

18:00～18:20（首相官邸）

参加者：代表スカウト20県連盟47人

- ・司会、決意の言葉、弥栄を行うスカウトは、自己紹介等の動画を提出資料とし選考を行った。
- ・代表スカウトは、訪問日前日に集合し1泊2日の準備訓練を実施した。
- ・参加者アンケート等により、スカウトにとって多くの学びや成果があったことが確認できた。
- ・皇太子殿下のお言葉、林文部科学大臣、安倍内閣総理大臣、そして、富士スカウトOBの山本ボーイスカウト振興国会議員連盟理事からも激励の言葉をいただくことができた。
- ・昨年度の事業対象者は147人に対し今回165人で、約1割の増加となり、富士スカウト章取得者はベンチャースカウト全体の約2.5%である。
- ・2017（平成29）年度（4月1日～3月31日）の富士スカウト章受章者は、187人となり、2016（平成28）年度受章者131人より4割ほど増加した。

日－4：全国ローバースカウト会議（RCJ）を通じてローバースカウト活動の活性化を図ることについては、次の活動を展開した。

- ・全国大会において、40県連盟の代表が集まり年次総会を開催した。また、テーマ別集会にて、ローバースカウト活動とRCJについての活動紹介と世界のローバースカウトについてプレゼンを行った他、期間中を通じてエキスポ会場にて全国の活動紹介を行った。
- ・総会の決議により2018（平成30）年度に野営大会を開催することとし、実行委員会を編成して準備を開始した。
- ・新たな運営委員にて、全国とのつながりを広げるとともに、そのネットワークを活かして日本連盟主催事業や海外派遣の情報を共有して、協力者や参加者を募った。
- ・9月 RCJフォーラム2017（参加者募集）
- ・11月 しぜんとあそびデイキャンプ2017 in 高萩（スタッフ募集）
- ・海外派遣については長中期計画の7-5に記載
- ・各ブロックにおいてオンラインを中心とした会議が定期的に行われた他、対面会議を開催した。
- ・関東、近畿、中国・四国ブロックにおいてブロックイベントを開催した。
- ・効率的な情報提供や情報交換を実現するために、10月よりホームページを公開し運用を始めた。

日－5：RS部門の在り方の方向性については、「RS部門在り方検討タスクチーム」にて、部門の在り方、ハンドブック、セミナー、RS認識章等を引き続き検討した。

日－6：参加者が話し合いや交流を通して、スカウティングにおける課題解決のための契機となるよう、次のとおりRCJフォーラム2017を開催した。

期 間：10月7日（土）～9日（月・祝）

会 場：大阪府少年自然の家

参加者：32県連盟128人、実行委員9人

テーマ：「BLAZING THE TRAIL」 ～その一歩を踏み出す前に～

- ・過去のフォーラムを経験者と公募によるローバースカウトを中心とした実行委員会で運営を行った。
- ・全国の様々な活動の報告の中で、夏季に実施された世界スカウトフォーラム派遣、世界スカウトムート派遣などを参加者に発表した。
- ・前回と同様に、全体の採択文は作らず、個人の目標としての採択文を事後アンケートにより取りまと

めた。

日－7：英国エディンバラ公国際については、一般事業（団－10）に記載とおり、ローバースカウト年代のプログラムの一環として、英国エディンバラ公国際アワードを導入しており、今年度初めて挑戦者の修了認定を受け、計6人のスカウトが修了した。英国エディンバラ公国際アワード財団事務局長と面談し、日本連盟が独自にアワードリーダー研修会を実施できるなどの権限が持てるOA（operation authority）の認証を受けることの提案があった。今年度末に日本事務局の閉鎖に伴い、12月末までをイギリスの国際アワード財団との関係確認や新たなライセンス契約を構築するための移行期間として、限定的に活動することとなった。

日－8：海外派遣事業については、今年度は11事業あり、アメリカ、アイスランド、アゼルバイジャン、エクアドル、オーストラリア、韓国、スイス、ノルウェー、フィンランド、モンゴルの10カ国で、合計94人を派遣した。

- ① カンダーシュテーク夏季野営スタッフ派遣（ローバースカウト1人）
- ② 2017アメリカジャンボリー派遣（スカウト9人、指導者3人 合計12人）
- ③ 韓日スカウトフォーラム派遣（スカウト10人、指導者3人 合計13人）
- ④ スカウトオーストラリア短期留学（学習旅行）派遣（ベンチャースカウト2人）
- ⑤ 第15回世界スカウトムート（アイスランド）派遣  
（ローバースカウト17人、指導者2人 合計19人）
- ⑥ 第31回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー（モンゴル）派遣  
（スカウト29人、IST1人、指導者9人、合計39人）
- ⑦ CJKベンチャースカウトプロジェクト派遣  
（韓国開催 ベンチャースカウト4人、指導者1人、合計5人）
- ⑧ 第13回世界スカウトユースフォーラム（アゼルバイジャン）派遣（ローバースカウト4人）
- ⑨ スカウト特別海外派遣（霞会館補助事業）（ローバースカウト1人）

年度中に開催の通報があり、参加をしたものは、次の2事業で、エクアドル、韓国、2カ国に合計4人を派遣した。

- ⑩ 第5回インターアメリカ地域リーダーシップトレーニング派遣（ローバースカウト2人）
- ⑪ 平昌冬季オリンピック世界ユースキャンプ派遣（スカウト1人、指導者1人 合計2人）

本年度に県連盟・地区・団等による「海外派遣」として承認された計画は、8県連盟、19事業、参加者238人であった。

日－9：海外スカウト受入事業については、次の2事業を行い、2カ国より42人を受け入れた。

- ① オーストラリア短期交換留学スカウト受入（ベンチャースカウト2人）
- ② 2017（平成29）年度日韓スカウト交歓計画（スカウト36人、指導者4人、合計40人）

県連盟・地区・団等の計画による「外国スカウト受入計画」として承認された計画は5県連盟、7事業、訪日団参加者5カ国より合計171人であった。

日－10：国際活動サービスチーム（STIA）の活動は、外国スカウト案内、海外派遣支援、翻訳協力等を中心に行っている。このチームの活動は、将来国際社会で活躍できる人材の育成と発掘に役立っている。2017（平成29）年度は新規に18人が登録し、前年度からの継続登録者36人と合わせて54人の登録があった。7月8日には、ボーイスカウト会館で国際活動サービスチーム集会を開催し、今後の活動に関する意見交換を行った。18人のチーム員に加え、未登録者8人、合計26人の参加があった。

日－11：新しい訓練体系に基づいた基礎訓練課程の研修内容をより深く理解できるよう「課題研修」の内容を改訂し、2018（平成30）年度から施行することとした。

日－12：トレーナーに求められる資質・能力、就任・継続条件、任期、正副トレーナーの役割、任期中の自己研修、休務など異動に関する内規など「トレーナー制度」全般の見直しを検討している。

日－13：トレーナー研究集会、トレーナー訓練については、次のとおり実施した。

#### トレーナー研究集会

今年度は2018（平成30）年2月4日から25日まで全国11会場で開催し、今年度の日本連盟の指導者養成に関する取り組みと2018（平成30）年度の予定を報告し、共通研究テーマを「ウッドバッジ研修所スカウトコースにおける隊スタッフ所員の隊運営と班担当所員の支援についての研究」に設定し、各地で研究を行った。

全国のトレーナーに新指導者訓練を浸透させ、隊指導者・団指導者への支援の方法について深く考察する機会となっている。

#### リーダートレーナーコース

本コースは、参加者が日本連盟の訓練方針と新指導者訓練体系を理解し、各種の指導者訓練、特に訓練の企画及び実施をするための技能を修得することを目的として開設している。

（6月21日～6月25日 於・那須野営場 12県連盟17人の参加）

#### 副リーダートレーナーコース

本コースは、参加者が日本連盟の訓練方針と新指導者訓練体系を理解し、各種の指導者訓練、特に導入訓練課程及び基礎訓練課程を行う技能を修得することを目的として開設した。

(6月7日～6月11日 於・那須野営場 19県連盟40人の参加となった)

日-14：新任トレーナーの養成については、次の通り実施した。

#### 新任副リーダートレーナー研修会

副リーダートレーナーコースを修了し、トレーナー就任を承諾された者を対象に委嘱状、3ビーズの授与の他、手続き、心構えについて研修を行った。

3月10日(土)東会場：BS会館、3月11日(日)西会場：大阪スカウト会館

トレーナーの任務や、必要な資料の活用方法、関連する教育規程について研修を行い、トレーナーとして奉仕する決意を新たにす有意義な研修となっている

日-15：2017(平成29)年度全国大会については、次のとおり実施した。

- ・5月27日(土)から28日(日)まで鳥取県「とりぎん文化会館(鳥取県民文化会館)他で785人(来賓も含む)の参加者を得て開催した。1日目は日本連盟からの各種報告等・年次表彰・全国県連代表者会議・県連盟コミッショナー会議・RCJ総会・交歓会を、2日目は、全国スカウト教育会議(テーマ集会)を行った。また、2日間にわたって行ったスカウティングエキスポ・鳥取連盟主管の「わくわくぼうけん広場」では、加盟員有志、諸団体、地元物産他多くのコーナーを設置することができた。
- ・昨年度に引き続き、諸会議(全国県連代表者会議・県連盟コミッショナー会議・RCJ総会)を1日目に実施したことにより、2日目の全国スカウト教育会議には多くの参加を得ることができた。
- ・スカウティングエキスポ、わくわくぼうけん広場では、加盟員以外からも多くの来場者があった。
- ・全国スカウト教育会議(テーマ集会)は、9つのテーマを設定した。①PR計画と組織拡充について、②コミッショナー活動の充実について、③スカウティングを科学する、④スカウト活動とアレルギー疾患について、⑤ローバースカウト活動とRCJについて、⑥何でスカウトコース?～楽しいスカウティングを目指して～、⑦国際活動の推進と海外派遣報告会、⑧ボーイスカウト部門とベンチャースカウト部門の新進級課程について、⑨セーフ・フロム・ハーム(思いやりを育む教育)について、と今年度もタイムリーな内容で構成し、多くの指導者に参加者してもらった。
- ・9月以降、2018(平成30)年度全国大会(岐阜)の準備を開始した。

日-16：組織拡充モデル県連盟については、2016(平成28)年度から高知県連盟と山口県連盟を、2017(平成29)年度からは秋田県連盟を加え、組織拡充を推進している。

秋田では、5月21日の県連盟年次総会に合わせ村田委員長の講演「一人でも多くの青少年にスカウティングを」、県教育庁生涯学習課長との面会、翌日には、(訪問順)AKT秋田テレビ、NHK秋田放送局、秋田市教育委員会、ABS秋田放送、秋田魁新報社、AAB秋田朝日放送を訪問し支援要請を行った。6月17日にはイオンモール秋田での防災キャラバンにて広報・募集活動の支援を行った。1月の県連盟新春の集いでは、村田委員長が講演「スカウト運動の浸透と社会的価値の向上を」を行った。また、募集活動用に秋田県連盟専用のチラシを6千部作成し、県連盟事業他で配付を行った。

山口では、6月18日の県連盟年次総会に合わせ村田委員長の講演「加盟員拡大について」を行った。以降、県連盟事業と団支援・組織拡充委員会の日程が合わず、訪問することができなかった。

高知では、8月に(訪問順)高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知商工会議所青年部、高知新聞社、高知青年会議所、世界救世教高知布教所を訪問し、引き続きの支援要請を行った。10月15日には野外活動体験イベントを高知城丸ノ内緑地公園で開催した。当日は悪天候となったため、午前中のみ実施し午後は中止としたが、近畿ブロックのローバースカウト年代10人(兵庫8人、奈良2人)からプログラム実施の協力を得ることができた。翌日には、(訪問順)高知さんさんテレビ、KCB高知ケーブルテレビ株式会社、高知新聞社、RKC高知放送、NHK高知放送局、KUTVテレビ高知を訪問し、特に12月2日の防災キャラバンの事前告知・当日取材の依頼を行った。12月2日には、イオンモール高知での防災キャラバンにて広報・募集活動の支援を行った。その前日には、高知県在住のローバースカウト年代3人と面会し協力要請を行った。また、高知県連盟専用の募集用ポスターを500枚作成し各所に掲示依頼をするとともに、専用の電話回線を敷設した。

日-17：募集説明会用ツールについてはPR動画、ポスター、ロゴ、PC各種様式などの多様な素材の提供をWEBサイトで行い、この活用を広げるためのPR説明会を多数開催。また各県連盟にこうしたものの活用を進め呼びかけていただく人材としても「PRドリームチーム」メンバー登録を要請し、動きを進めた。

日-18：組織拡充担当者による会合は、次のとおり実施した。

- ・11月11日(土)、12日(日)の2日間通い型で、東京・ボーイスカウト会館にて「加盟員を増やすために都道府県連盟ができること、すべきこと」をテーマに、全国組織拡充担当委員長会合を開催した。
- ・参加者31県連盟34人、スタッフ9人(団支援・組織拡充委員会委員5人、事務局4人)
- ・内容：①団支援・組織拡充委員会から「加盟員拡大に向けて」の提案とお願い、②「他の習い事とスカウティングの差別化を考える～スカウト活動を一層アピールするために～」の情報提供、③研究「自県連盟の加盟員増加について」、④研究「今後の団や隊の在り方を探る」
- ・前年度(22県連盟23人)より多くの参加者を得ることができた。毎年度恒例の会合として定期的に開催していることから、今後、全県連盟からの参加への啓発、またブロック開催の支援を検討する。



日-19: 組織拡充顕彰については、次のとおり実施した。

・2017(平成29)年度全国大会表彰式において顕彰を実施した。

【県連盟対象】①スカウト加盟員数の増加=5県連盟、②BVS隊設置=5県連盟、  
③スカウト継続登録者率=0県連盟、④団数の増加=0県連盟

【団対象】Sランク=10県連盟17こ団、Aランク=25県連盟100こ団

・2017(平成29)年度については11月25日付で全県連盟宛に文書発信し、「2019(平成30)年度全国大会」表彰式において顕彰する。

・対象となった団は減少しているが、全国大会「表彰式」において、多くの県連盟、優良団の出席を得て顕彰を行うことができた。

日-20: 中途退団数の実人数を把握することについては、毎月末に登録状況を集計し、都道府県連盟に配信・諸会議に配布することで連盟全体での把握を進めた。

日-21~25: これらについては「新広報戦略10本の矢」を立ち上げ、具体的な各種PR事業を全面的に展開した。

「10本の矢」関連諸発信成果等

<PR動画>

「一人前かるた」4/10公開 181,695回 以上再生(広告使用)

「保護者インタビュー」6/1公開 8,026回 以上再生

「なろう。一人前に。夏休み編」7/17公開 560,520回 以上再生(広告使用)

「ボーイスカウトが伝えたいこと」10/4公開 31,094回 以上再生

総計 781,335回 以上再生

\*ムービーコンテストの呼び水として委員が作成したハウツー動画は広告を使用せずに111,717回以上再生

<入会促進キャンペーンサイト(リクルートサイト)>

訪問ユーザー数: 99,602(うち88%新規) ページビュー数: 397,754

平均滞在時間: 2分2秒(世間平均1分以下)

訪問者の市区町村上位、1位大阪、2位横浜、3位新宿区、4位港区、5位名古屋、6位札幌、7位福岡、8位渋谷区、9位さいたま市、10位中央区

アクセス媒体: スマホが55%(タブレット、アンドロイドPC含む) デスクトップ38%

ユーザー属性: 18-24 9.53%、25-34 20.98%、35-44 40.88%、45-54 15.69%、55-64 8.06% 65up 4.87%

男女比: 男性54.2:女性45.8

団検索表示回数: 163,016回

問い合わせ数: 581件(システム利用、団へリンクし、その先からの問い合わせは含まないが、表示回数からの推測で、相当数行っている可能性がある)

<主要メディア(新聞・ラジオ・テレビ・雑誌)とWEBメディアへの掲載例など>

2017(平成29)年春からのメディア掲載は日本連盟で掌握できたものだけで224件

<PR計画関連講演、説明会ほか各種事業>

4月 入会促進キャンペーンのWEBサイト(リクルートサイト)を新設  
興味喚起動画第一弾「一人前かるた」公開 拡散作戦開始  
ムービーコンテスト要項公開

5月 スカウティング誌5月号にてPR計画概要説明・協力要請  
全国大会PRブース出展・分科会開催にて全国に協力要請  
コミュニケーションロゴ関連グッズ展開

6月 補助動画第一弾「保護者インタビュー」公開  
PR計画講演④大阪  
PRドリームチーム募集開始  
PR計画講演⑤愛知

7月 スカウトと社会をつなぐ場所③イオントップバリュ  
興味喚起動画第二弾「なろう。一人前に。夏休み編」公開

8月 スカウトと社会をつなぐ場所④大和ハウス工業  
防災キャラバンPRイベント・野口宇宙飛行士

10月 主要動画「一人前ってなんだろう?ボーイスカウトが伝えたいこと」公開  
インスタグラムでのPR写真拡散開始

PR計画講演⑥新潟  
PR計画講演⑦中部ブロック職員研修

11月 スカウトと社会をつなぐ場所⑤リオティントジャパン  
ムービーコンテスト  
PR計画講演⑧神奈川

PR計画講演⑨千葉・北総地区

12月 PR計画講演⑩京都

- 補助動画第二弾「指導者インタビュー」公開
- 1月 PR計画講演⑪兵庫  
スカウトと社会をつなぐ場所⑥キッザニア
- 2月 PR計画講演⑫長野  
PR計画講演⑬千葉（県連盟役員等）
- 3月 PR計画講演⑭千葉（団委員長等）  
PR計画講演⑮岡山  
保護者アンケート実施

日-26：全国BS写真コンテスト

例年同様11月～2月末まで募集し、少年の部238点、青年・成人の部145点、計383点の応募があった。それぞれの部門で最優秀1点、優秀2点、入選7点を、日本写真家協会元会長の田沼武能審査員長に選考いただき表彰した。また各部門の最優秀者にはキャンノンより提供いただいた賞品（デジタルカメラ）を贈呈した。

日-27：一般書籍「スノーキャンプ・マニュアル」の監修に協力し、一般のキャンパー向けにさまざまなボーイスカウト流スノーキャンプの「知恵」を掲載した。

日-28：WOSM・外国連盟資料の翻訳・出版については、2017（平成29）年度は第41回世界スカウト会議が開催に伴い、決議文の翻訳を行った。

日-29：絶版書籍の再販について検討はしたが、良い企画に至らなかった。引き続き再販価値のある書籍の検討を続けるとともに、古い機関誌連載記事を集めた新刊書の企画を検討する。

日-30：各種ハンドブックの内容改訂については、指導者養成委員会、プログラム委員会との連携により進めている。

日-31：スカウト歌集の編纂については、スカウトソング特別委員会にて過年度からの修正内容を確認の上、ビーバー歌集とカブ歌集を改訂した。

日-32：スカウトソング研修会と、スカウトソング研修会の企画・運営をテーマとしたスカウトソングワークショップを2017（平成29）年度初めて開催した。当初は上半期に開催する予定であったが、開催最小人数に満たなかったため、時期と会場を変更して改めて募集した。また、次年度のスカウトソング研修会については、県連盟の開催希望を募り会場を選定することとした。

- ・2017（平成29）年度スカウトソング研修会  
期 間：平成29年11月25日（土）～26日（日）  
場 所：愛知 新城・吉川野営場  
参加者：6県連盟34人
- ・2017（平成29）年度スカウトソングワークショップ  
期 間：平成30年1月13日（土）～14日（日）  
場 所：東京 築地本願寺  
参加者：17県連盟33人

日-33：2017（平成29）年度の維持会費実績は次のとおりであった。

維持会員	総計	3,915	個人・法人
(内訳)	通常維持会員	3,659	個人・法人
	特別維持会員	77	個人
	法人維持会員	111	法人
	旧特別維持会員	68	個人・法人

#### 維持会費入金額

当該年度実績額	75,188,300	円（予算額の130.8%）
当該年度予算額	57,500,000	円
前年度実績額	53,904,131	円

#### 当該年度実績額内訳

県連盟取扱額	58,467,000	円（予算額の158.0%）
県連盟協力依頼額	37,000,000	円
前年度実績額	42,937,597	円
日本連盟取扱額	16,721,300	円（予算額の81.6%）
日本連盟予算額	20,500,000	円
前年度実績額	10,966,534	円

- ・2017（平成29）年度の維持会費実績は、各県連盟の多大なる協力を得て、無事目標額の57,500,000円を達成することができた。（3月末日現在：対前年比では+21,284千円。ただし大口の納入があった）
  - ・目標達成県連盟は39県連盟であった。
  - ・維持会員年功章の制定につき組織内調整を行い、2018（平成30）年度からの導入することとなった。新たな表彰の設定によりより多くの加入者を促進するとともに、同制度に外部の法人等への表彰も組み込み、あわせて入会促進を図ることとした。
- 日-34：ボーイスカウトカードの入会促進については、
- ・2011（平成23年）度よりウェブによる申込システムを導入し入会促進を図っている。
  - ・ボーイスカウトカード会員数（2月末現在）  
     総計1551人（内訳）正会員数1418人、家族会員数133人
  - ・ウェブによる申込システムを導入し加入者数は一旦下げ止まりを見せたが、漸減している。対前年同時期では31人減少となった。
  - ・機関誌や維持会員だよりに入会のお知らせを掲載する一方、現在のカードよりもメリットのある新たな媒体の研究を課題としているが、進展できていない。
- 日-35：遺贈システムについても維持会員だより等でお知らせを掲載してきた。また一般の雑誌等での遺贈関連特集記事への広告出稿についても検討したが、まずはスカウトクラブ員へのお知らせ等組織を通じたPRに力を入れていくこととして2018（平成30）年度の課題とした。
- 日-36：例年同様、それぞれの財団会員等のネットワークからのPRを展開いただき、その事務支援等を行ってきた。2017（平成29）年度世界スカウト財団には2人、APRスカウト財団には4人の新規加入者を得た。これにより世界スカウト財団B-Pフェローは243人、APRスカウト財団会員は180人となった。なお世界スカウト財団年次総会は4月にベルリンで開催され、世界スカウト財団の荒尾理事（B-Pフェロー日本チャプター会長）ほか十数名が同所で開催されたB-Pフェロー会合に参加した。
- 日-37：例年同様、それぞれの会員等のネットワークからのPRを展開いただき、その事務支援等を行ってきた。2017年（平成29）年度スカウトロータリアンには2人、スカウトライオンズには7人の新規加入者を得た。これによりスカウトロータリアンは55人、スカウトライオンズは56人となった。5月の鳥取での全国大会時、それぞれの年次総会を開催した。
- 日-38：ともに進もう助成プログラムは、2017（平成29）年度に13県連盟、34家庭、43人（うち新規20人）の助成を行った。
- 日-39：前項の原資を集める「もったいない寄付」は、2017（平成29）年度に約72万円を集めたが不十分であるため2018（平成30）年度にさらに呼びかけを強化する。
- 日-40：当時支援をいただいた企業のリスト整理集約の作業を行い、挨拶状発信の準備を整えた。2018（平成30）年度に募金に関する新たなチーム編成を行い、募金依頼を展開する。
- 日-41：2017（平成29）年度は次の補助金・助成金を得た。
- |  |             |
|--|-------------|
| ・高萩市「高萩スカウトフィールド整備促進補助金」                             | 50,000,000円 |
| ・独立行政法人環境再生保全機構（地球環境基金）<br>「森から学ぶESD（持続可能な開発のための教育）」 | 2,083,000円  |
| ・セブンイレブン記念財団「スカウトの日」協賛金                              | 5,500,000円  |
- 日-42：東京オリンピック、パラリンピックについては、組織委員会等へのアプローチ策を探り、また併催の可能性を探るユースキャンプ事業の立案会議等にも参画したが、大きな進展は得られなかった。ただし3月の組織委員会でボーイスカウトへの協力要請が議決され、今後具体的な要請があり次第対応を進める。
- 日-43：新しい野営場用地の確保のためプロジェクトチームを設置することについては、長中期計画の行動計画より取り組んだ施策（12-8）に記載のとおり、現在難しい状況にある。
- 日-44：静岡県立富士山麓山の村施設の活用については、静岡県との調整の結果、大きく進めないこととした。
- 日-45：野営場整備について各県連盟等の自主的協力も促進しつつ全国の加盟員がプログラムとして活用することを推進することについては、高萩スカウトフィールドでの日本ジャンボレット高萩2017開催に向けて、専門的技術のある加盟員の協力を得て整備を進めた。
- 日-46：安全促進フォーラムの内容については、参加対象者（隊・団指導者または県連盟および地区役員）に応じた研修内容を策定し、来年度実施することとした。
- 日-47：提言を基に、技能章「防災章」を策定した。
- 日-48：「共済事業」の運用については、共済事業報告書が別途発行されるが、概要は次のとおりである。
- ・2014（平成26）年4月より「PTA・青少年教育団体共済法」を根拠法とする認可共済『そなえよ

- つねに共済』を開始し4年目を迎えた。ボーイスカウト活動中の事故を補償する。共済掛金は800円であるが、9月以降の加入は600円に減額している。
- ・2018（平成30）年3月末現在、109,800人（内、非加盟員を6,074人を含む）の申込を受付して運用した。例年同様、加入総人数の93%が4月に加入している。前年度と比較すると、加盟員の減少傾向と相俟って、5,302人（約4.6%）の減員となった。
  - ・非加盟員の加入者数は毎年増加傾向にある一方、加盟員を含めた全体の加入者数はここ数年間続く対前年度比5%前後の減少傾向に歯止めがかかっていない。
  - ・事故状況については、前年度以前に発生した事故も含めて今年度内に356件の「事故発生状況受付簿」を受付した。今年度に発生した事故に限れば328件で、前年度と比較した同時期の件数比では約7.9%減となった。
  - ・2017（平成29）年度内に発生した事故は今後も一定数「事故発生状況受付簿」を受付することが見込まれ、最終的には400件位になる見込みである。
  - ・共済金の給付は「安全普及啓発活動」に対して次のとおり円滑に行われている。
    - ①「安全促進フォーラム」の開催については、一般事業「県-9」（P.18）参照。
    - ②安全分野に係わる各種資料制作：スカウティング誌掲載記事抜粋の冊子（SFH・安全委員会作成『野外活動のための安心・安全講座』）作成。指導者への情報提供を通じて、活動中の事故低減を図った。
    - ③2015（平成27）年度に、ボーイスカウトの各都道府県連盟事務局及び那須野営場、高萩スカウトフィールド（山中野営場より移設）、日本連盟にAEDを各1台配備した経費は、5年間に亘り安全普及啓発活動費より支出（3年目）している。

#### 日-他1：地球環境基金助成活動「しぜんとあそぼダイキャンプ2017 in 高萩」の開催

##### <事業内容>

森林を使った環境教育を通じて一人ひとりが環境への取り組みを重要な課題として認識し、自発的に環境保・環境美化に取り組む態度を身につけることを目指し、地球環境基金助成を受けて、高萩市内の全小学校の4年生と6年生を対象に自然体験教室を実施した。

スタッフとして、ローバースカウトおよび同年代指導者や成人指導者が協力して指導にあたった。

主 催：公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

協 力：茨城県、茨城県教育委員会、高萩市、高萩市教育委員会

開催日と参加者：

- ① 11月 6日(月) 松岡小学校6年 男子38人、女子33人 計71人
- ② 7日(火) 東 小学校6年 男子21人、女子14人 計35人
- ③ 7日(火) 東 小学校4年 男子21人、女子10人 計31人
- ④ 8日(水) 高萩小学校6年 男子27人、女子26人 計53人
- ⑤ 9日(木) 高萩小学校4年 男子32人、女子30人 計62人
- ⑥ 10日(金) 松岡小学校4年 男子30人、女子25人 計55人
- ⑦ 16日(木) 秋山小学校4年 男子30人、女子36人 計66人
- ⑧ 17日(金) 秋山小学校6年 男子38人、女子38人 計76人

高萩市内全小学校4校の4年生と6年生 合計449人の児童が参加

場 所：日本連盟・大和の森 高萩スカウトフィールド

アクティビティ：

- ①山中に設置された施設を班で達成し、協力の大切さを学ぶアドベンチャー体験
- ②森の中を歩き、自然観察やゲームを通して、自然の不思議さや発見・感動、環境保全を学ぶネイチャートレイル
- ③火起こし&おやつ作り
- ④テント体験&ロープワーク

##### <成果と評価>

この事業は2015（平成27）年度から実施し、本年度で3年度の最終年となった。

2015（平成27）年度は4回で231人、2016（平成28）年度は6回で318人、2017（平成29）年度は8回で449人と、着実に参加者が増え、高萩市内の一定年齢の児童全員が、高萩スカウトフィールドで体験活動をしたことになる。

事業目標「環境を大切にすることをもち、環境を保全する行動ができるようになる」に対し、参加した児童の97%が「できるようになった」と回答があり、「目標は達成された」と言える。

#### 日-他2：出会いと体験の森ヘリーダーズキャンプの実施

##### <事業内容>

「出会いと体験の森へ」は、人を育てるキャンプに携わる5つの団体【日本キャンプ協会、YMCA、東京YWCA、ガールスカウト日本連盟（GS）、ボーイスカウト日本連盟（BS）】が実行委員会を構成して事業を実施した。今回で6回目となるこの事業は、ボーイスカウト日本連盟が主管し、5団体の指導者が各団体の特色ある教育方法を認識するとともに、各自のスキルアップと団体間の交流を深めるキャンプを実践した。

期 間：11月3日（金・祝）～5日（日）2泊3日

会 場：大和の森 高萩スカウトフィールド

対 象：18歳以上の日本キャンプ協会、YMCA、YWCA、ガールスカウト日本連盟、ボーイスカウト日本連盟の会員および関係者

内 容：期間中は、小グループでのテント泊やかまどやを用いた野外炊事を行い、参加者同士でより

良いキャンプ生活ができるように工夫し、行動しました。各プログラムは各団体が担当して実施した

1日目：設営（野外生活空間づくり）、野外炊事、ナイトゲーム

2日目：選択プログラム（ハイキング、パイオニアリング、ネイチャートレイル、木こり体験、クッキング）から2種類を選んで実施、野外炊事、ナイトゲーム

3日目：参加者自主企画プログラム、野外炊事、撤営

<成果と評価>

参加者は、5団体から女性12人、男性6人、スタッフ11人の計29人と予定人数には達しなかったが、所期の目的は達成することができた。

以 上

## VI. 各種会議の開催

### 2017（平成29）年度 評議員会・理事会の開催

#### 第1回理事会：5月9日（火）ボーイスカウト会館で開催

1. 平成28年度の決算について
2. 平成28年度の事業報告について
3. 平成29年度維持会費の都道府県連盟への協力依頼について
4. 平成31年度全国大会開催地について
5. 任期満了に伴う名誉会議議員の選任について
6. 広報ドリームチームの設立について
7. 第41回世界スカウト会議日本代表団の編成の変更について
8. 維持会員への表彰について

#### 定時評議員会：5月26日（金）とりぎん文化会館で開催

1. 平成28年度の決算及び平成28年度共済事業決算について

#### 第1回臨時理事会：6月18日（日）ボーイスカウト会館で開催

1. 重要な財産の所得について
2. 基本財産の取り崩し及び取得した不動産等の基本財産への繰入について
3. 重要な財産の貸し出しについて
4. 定款の変更に向けた手続きについて
5. 平成29年度第1回臨時評議員会の議案について
6. 高萩市森林組合株の取得について

#### 第1回臨時評議員会：7月12日（水）ボーイスカウト会館で開催

1. 重要な財産の取得について
2. 基本財産の取り崩し及び取得した不動産等の基本財産への繰入について
3. 重要な財産の貸し出しについて
4. 定款の変更に向けた手続きについて

#### 評議員会（書面審議）：9月1日（金）

1. 日本中国・四国ブロック選出評議員の退任、後任の推薦について

#### 第2回理事会：10月10日（火）ボーイスカウト会館で開催

1. 日本連盟100周年財政ビジョンについて
2. ボーイスカウトエンタープライズからの旧制服在庫処理等の提案について
3. 役員の変更等について
4. 維持会員年功章について
5. 平成30年度国の委託事業・公益団体等補助事業について
6. 中途退団抑止に関するタスクチーム・特別委員会の設置について
7. 平成30年度全国大会運営スタッフ長の選任について
8. B-Pフェロー日本チャプターについて
9. 第18回日本スカウトジャンボリー会場候補地について
10. 平成30年度事業計画策定について

#### 第2回臨時理事会：1月16日（火）ボーイスカウト会館で開催

1. 財政再建及び組織改革に関する基本方針について
2. 加盟登録料の改定について
3. 平成29年度臨時評議員会の議案について
4. 第17回日本スカウトジャンボリー第2次予算について
5. 東日本大震災に伴う登録料の支援について
6. 高萩スカウトフィールド整備経費の一部を「建物補修等積立資産」より支出することについて
7. ボーイスカウトエンタープライズへの対応について
8. 平成30年度事業計画について

9. 平成30年度収支予算について
10. 平成29年度決算見込みについて

**第3回臨時理事会：2月18日（日）ボーイスカウト会館で開催**

1. 国債の不動産化と本郷スカウト会館の賃貸化について

**第2回臨時評議員会：2月28日（水）ボーイスカウト会館で開催**

1. 国債の不動産化と本郷スカウト会館の賃貸化について

**第3回理事会：3月19日（月）ボーイスカウト会館で開催**

1. 任期満了に伴う評議員の選任について
2. 任期満了に伴う理事・監事の選任について
3. 平成30年度・31年度の各種委員会等の委員の選任について
4. 名誉役員の委嘱について
5. 平成30年度事業計画について
6. 平成30年度予算について
7. 加盟登録料の減免について
8. 平成30年5月評議員会の議題について
9. ボーイスカウトエンタープライズへの対応について

**第3回臨時評議員会：3月19日（月）ボーイスカウト会館で開催**

1. 加盟登録料の改定について
2. 任期満了に伴う評議員の選任について
3. 任期満了に伴う理事・監事の選任について

**運営会議の開催**

構 成 員：奥島孝康理事長、日枝久副理事長、松平頼武副理事長、水野正人副理事長、西村 稔専務理事、佐野友保常務理事、吉田俊仁常務理事、膳師 功理事（日本連盟コミッショナー）

開 催 日：第1回 4月 4日（火）  
第2回 5月 9日（火）  
第3回 6月 6日（火）  
第4回 9月 5日（火）  
第5回 10月 3日（火）  
第6回 11月 7日（火）  
第7回 12月 5日（火）  
第8回 1月 9日（火）  
第9回 2月 6日（火）  
第10回 3月 6日（火）

場 所：東京 ボーイスカウト会館

**県連盟代表者会議の開催**

**〔第1回〕**

日 時：5月27日（土）15：30～17：30

場 所：鳥取・とりぎん文化会館

出 席 者：47都道府県連盟理事長または代理者、日本連盟 奥島理事長、他6人

- 内 容：1. 平成28年度事業報告・決算について  
2. 平成29年度事業報告・決算について  
3. 高萩スカウトフィールドについて  
4. 山中野営場について  
5. 第17回日本スカウトジャンボリーの準備について  
6. 維持会員について  
7. 日本連盟100周年に向けた取り組みについて  
8. 第18回日本スカウトジャンボリー（2022年）会場誘致について

## 〔第2回〕

- 日時：1月27日（土）13：00～16：00  
場所：東京・ボーイスカウト会館  
出席者：45都道府県連盟理事長または代理者  
日本連盟 奥島理事長、他理事9人  
内容：1. 財政再建および組織改革の基本方針について  
2. 加盟登録料の改定について  
3. 平成30年度事業計画（案）、予算（案）について  
4. 平成30年度全国大会について  
5. 第17回日本スカウトジャンボリーの準備状況について  
6. 第24回世界スカウトジャンボリー派遣員の募集について  
7. 第18回日本スカウトジャンボリー会場候補地の提案について（再依頼）  
8. 団診断データに基づく団支援について

## 全国県連盟コミッショナー会議の開催

### 〔第1回〕

- 日時：5月27日（土）15時30分～17時30分  
場所：鳥取県鳥取市・とりぎん文化会館 第2会議室  
出席者：県連盟コミッショナー47人（代理3人含む）  
鈴木副コミッショナー、西村副コミッショナー、嶋田国際副コミッショナー、村田団支援・組織拡充委員長、福嶋プログラム委員長、山内指導者養成委員長、磯山社会連携・広報委員長、増田「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員長、大久保トレーニングチームディレクター、コミッショナー活動活性化検討タスクチーム員3人  
主な内容：1. 平成29年度日本連盟事業計画  
2. 平成29年度日本連盟コミッショナー活動方針  
3. 日本連盟各常設委員会の取り組み  
4. コミッショナー活動活性化検討タスクチーム報告

### 〔第2回〕

- 日時：10月20日（金）12：00～22日（日）11：30  
場所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター  
出席者：県連盟コミッショナー46人（代理4人を含む）  
水野正人副理事長・国際コミッショナー、膳師 功日本連盟コミッショナー、西村伸次副コミッショナー、嶋田 寛国際副コミッショナー、村田禎章団支援・組織拡充委員長、福嶋正己プログラム委員長、山内直元指導者養成委員長、磯山友幸社会連携・広報委員長、増田秀夫 S f H・安全委員長、森屋啓財務委員会副委員長  
主な議題：1. 各常設委員会報告  
2. 24WSJへの準備  
3. 17NSJへの準備  
4. 表彰について  
5. 日本連盟100周年に向けた財政ビジョン  
6. グループ討議「組織拡充のための教育施策」

### 〔第3回〕

- 日時：1月20日（土）～21日（日）  
場所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター  
出席者：県連盟コミッショナー45人（代理7人を含む）  
水野副理事長・国際コミッショナー、膳師日本連盟コミッショナー、鈴木副コミッショナー、西村副コミッショナー、嶋田国際副コミッショナー、村田団支援・組織拡充委員長、福嶋プログラム委員長、山内指導者養成委員長、磯山社会連携・広報委員長、増田 S f H・安全委員長  
主な内容：1. 日本連盟コミッショナーの話  
2. 各常設委員会報告  
3. 17NSJへの準備  
4. グループ討議「スカウティングの質を高めるために」



## 全国事務局長会議の開催

日 時：11月18日（土）15：00～19日（日）11：10

場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者：45都道府県連盟事務局長および代理者

日本連盟 佐野常務理事、吉田常務理事、森屋財務委員会副委員長、木村事務局長

内 容：1. 日本連盟100周年財政ビジョンについて

2. 第17回日本スカウトジャンボリーの取り組みについて

3. 平成30年度事業方針（案）および長中期計画について

4. 100周年記念事業に向けた取り組みについて

5. 高萩スカウトフィールドの利用促進について

6. 県連盟別団診断データについて

7. 加盟登録状況、県別維持会員数・維持会費入金状況、新年賀詞交歓会について

8. ユニフォームの改定について

9. ボーイスカウトエンタープライズの事業報告について

11. 事前調査集計、日本連盟への要望・質問について

## Ⅶ. 参考（規程等改正一覧）

### 1. 外国語会話バッジに関する教育規程の改正

承認：平成29年11月26日開催のスカウト教育推進会議

公示：平成29年12月 8日

施行：平成30年 4月 1日

### 2. 新設記章（維持会員功労章）に関する教育規程の改正

承認：平成29年10月10日開催の理事会 ※章の新設と記章の意匠を承認

平成29年11月26日開催のスカウト教育推進会議 ※着用位置に関する規程の承認

公示：平成29年12月 8日

施行：平成30年 4月 1日

### 3. 英国エディンバラ公国際アワードに関する教育規程の改正

承認：平成30年 2月18日開催のスカウト教育推進会議

施行：平成30年 4月1日

## Ⅷ. ボーイスカウトエンタープライズ事業報告

### 1. 全般

2016（平成28）年度に決算月を3月から1月に変更し、2017（平成29）年度からは2月から1月までを会計年度としている。

2017（平成29）年度の決算は、販売予算472,000千円に対し、406,241千円で、予算対比約86%となった。

これは、加盟員の減少と2018（平成30）年8月末を以て旧制服の着用が終了することが影響していると考えられる。

一方、これまで使用していた倉庫経費の値上げに伴い、今後の経費削減のため倉庫を移転した。

アメリカ連盟とは、ノーマンロックウェルの商品への使用について、2020年までの3年間、無償での契約が成立した。

2017（平成29）年度損益表（単位：千円）

	予算	実績
販売金額	472,000	406,241
期首在庫	180,000	186,140
仕入金額	259,600	194,043
期末在庫	180,000	*171,289
商品原価	259,600	208,894
売上利益	212,400	197,347
益率	45	49
販売管理費	202,070	168,378
当期利益	10,330	28,969
ロイヤリティ	41,360	33,675

\*この171,289千円の在庫の内、旧制服、ベレー等、旧記章（記章が変更になり、使用出来なくなるもの）44,700千円が含まれており、それらを総合的に判断すれば実質は厳しい状況である。

### 2. 新制服の販売

2017（平成29）年度は新制服販売2年目となった。ビーバースカウト、カブスカウトの両部門は販売が順調に推移している。ボーイスカウト部門以上は、加盟員数の約55%となっている。

### 3. 新商品の展開

ユリマーク付き3色Yシャツ、ユリマークのジャカードネクタイ、グリーンジャンパー、モンベルグリーンバック2種類等の新商品を販売した。また、第17回日本スカウトジャンボリーの記念品（チーフリング、ピンバッジ、ワッペン等）の販売を開始し、今後さらなる記念品を販売する。

### 4. 各種会合・大会でのスカウトショップ展開と商品提供

- (1) 全国大会（鳥取）でのスカウトショップ
- (2) 日本ジャンボレット高萩2017大会でのスカウトショップ
- (3) 富士特別野営2017でのスカウトショップ

- (4) 山中野営場お別れイベントでのスカウトショップ
- (5) 県連盟総会等でのスカウトショップ
- (6) 日米フレンドシップパトローリー大会でのスカウトショップ

#### 5. 2018（平成30）年度の計画

旧制服の着用が2019（平成30）年8月末を以て終了することから、旧制服、ベレー、ベスト等、そして記章類の変更に伴う在庫処理を実施する。旧制服の処理方法として、再生繊維へのリサイクル処理等も視野に入れながら検討する。また、ズボン類に関しては販売価格を大幅にダウンして販売して行く。一方販売に関しては、新制服販売3年目に力を入れるとともに、第17回日本スカウトジャンボリーに向けた商品開発を積極的に行い、大会での予算達成に努力する。一方、スカウトショップが現在の本郷から（日本連盟事務局の移転に伴い）移転するので、新たなショップの移転地での展開を推し進めていく。